



四万十市のくらし

小学校社会科副読本

四万十市教育委員会

四万十市のくらし

小学校社会科副読本



四万十市教育委員会

四万十市のくらし

小学校社会科副読本

四万十市教育委員会

第1章 わたしたちの四万十市

- (1) 四万十市のようす…………… 6
- (2) 四万十市の位置…………… 10
- (3) 四万十市をくわしく見てみよう…………… 11



第2章 わたしたちのくらしと市のしせつ

- (1) どんなしせつがあるか調べてみよう…………… 16
- (2) 中央公民館…………… 18
- (3) 社会福祉センター…………… 22
- (4) ほ健センター…………… 24



第3章 わたしたちのくらしと買い物

- (1) 仕事調べ…………… 28
- (2) 店調べ…………… 30
- (3) 買い物調べ…………… 31
- (4) 店の工夫…………… 34



第4章 市の人たちの仕事

- (1) 農家の仕事…………… 44
- (2) 山の仕事…………… 53
- (3) 川の仕事…………… 56
- (4) 工場の仕事…………… 62
- (5) 安全を守る仕事…………… 68
- (6) 地域の特色を生かした仕事…………… 81



第5章 四万十市のうつりかわり

- (1) 百年くらい前までの昔さがし…………… 86
- (2) わたしたちの四万十市…………… 94
- (3) これからの四万十市…………… 107



四万十市のうつりかわり（年表）…………… 108

し まん と し みん けん しょう 四万十市民憲章

日本一の清流四万十川の美しい自然と、先人の残した誇り高き文化を継承する四万十市は、四国西南地域の拠点都市として栄えています。わたしたちは、四万十市民である誇りと責任を自覚し、より平和に、豊かで健康な市民生活を目指し、ここに市民憲章を定めます。

- 1 四万十川の美しい流れを守りましょう。
- 1 人間の尊さを知り、社会のきまりを守りましょう。
- 1 青少年に希望の持てる、豊かで、活力のあるまちをつくりましょう。
- 1 いたわりの心をひろげ、あたたかい郷土をつくりましょう。
- 1 教養を高め、かおりある文化のまちをつくりましょう。

へい せい
平成17年10月1日
告示第152号



1

わたしたちの四万十市

(1) 四万十市のようす

わたしたちの住んでいる四万十市は四万十川の下流にある市です。平野が少なく、山がほとんどです。市内には四万十川やそのし流の後川、中筋川、黒尊川、目黒川、広見川など多くの川が流れています。

四万十川は四国で一番長い川で、196kmもあるんだよ。

四万十川のはじまりは、津野町にある不入山です。知っていましたか。



四万十市は中村市と西土佐村が2005(平成17)年4月10日、いっしょになり生まれました。

江川崎付近



岩間付近



口屋内付近



川登付近



竹島付近



香山寺や石見寺から中村地いきの市街地を見ることができるわ。

高い所から見ると、家やビルがたくさんあるのね。



香山寺から見た市街地

四万十市の人口

3万7783人
2006年(平成18)年
3月31日げんざい

中村地区や具同地区に人口が集中しています。



為松公園から見た市街地

中村地いきの中に商店や役所の多い市街地があります。ここは、住んでいる人も多く、にぎやかなところです。具同にはだん地や大型の量はん店もでき、自家用車で買い物に出かける人も多くなってきました。



北の方は、高い山が続き、田や畑が少なく、林業がさかんです。このごろでは、人々が市街地へうつり住むようになり、人口が少なくなってきました。

四万十川のゆたかな自然を求めて、たくさんの人が



四万十川での漁

おとずれるようになりました。屋形船やカヌーなど、観光客のためのしせつもたくさんあります。アユやウナギ漁もさかんで



対岸から見た江川崎

す。西土佐地いきの江
川崎は愛媛県との県ざ
かいにあり、市の北部
の中心地です。

市の東の方は、整び
された国道にそってい
ろいろな店があり、大
型のスーパーマーケッ
トもでき、たくさんの
人が買い物に集まるよ

今でも大雨や台
風などのえいきよ
うで、道路や田畑
がつかれることもあ
ります。

ひ害は少なくな
ってきましたが、
大雨がふると、と
ても心配です。



東中筋地区のようす

西のほうは、中筋川にそって平野が広がっており、
米づくりが行われています。ここは、土地が低いた
め、大水のひ害
が多かったとこ
ろですが、てい
ぼうや水門、ポ
ンプ場ができて
からは、ひ害は
少なくなってい
きました。



有岡排水機場

このように、面積が広い四万十市は、店や住たくの
多いところ、田や畑の多いところ、川や海の近く、高
い山が続いているところなど、いろいろと土地のよう
すがちがっています。

みなさんも校区以外の土地のようすを調べ、自分た
ちのくらしとどのようなつながりがあるのか考えてみ
ましょう。

さいきん
最近、車を
つか
使って、買い物
をする人がふえ
たんだね。



国道56号線古津賀付近

うになりました
た。

南の方は、
四万十川が海
に流れこんで
おり、そこ
には、下田の港
があります。

海の仕事をしている人は少ないのですが、四万十川の
自然を利用してアオサやアオノリとりをしています。

下田港のようす

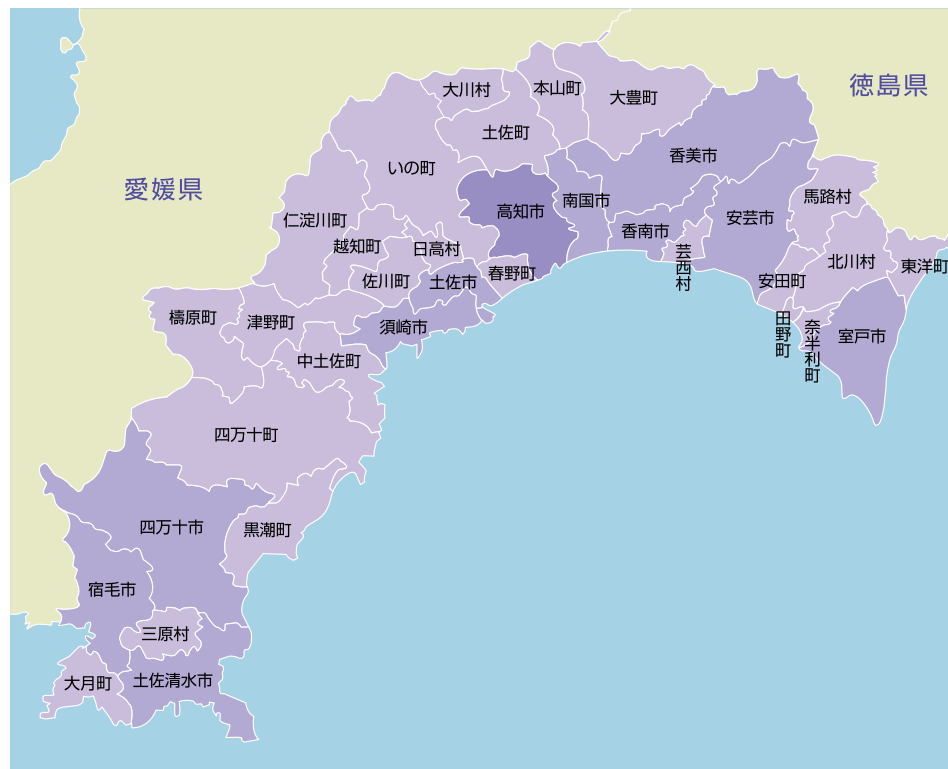


(2) 四万十市の位置

四万十市は、高知県の南西にあります。県内で一番大きくて長い四万十川の下流です。

四万十市のまわりには、黒潮町、四万十町、宿毛市、三原村、土佐清水市、愛媛県の宇和島市、松野町があります。地図を見てたしかめましょう。

幡多地方は、四万十市、宿毛市、三原村、大月町、土佐清水市、黒潮町が集まった地いきなんだね。



(3) 四万十市をくわしく見てみよう

四万十市の地図と小学校の位置



昔の小学校の数

1996(平成8)年
中村市 18校
西土佐村 11校
合計 29校

2006(平成18)年
中村地いき 14校
西土佐地いき 7校
合計 21校

児童数が少なくなったので、小学校の数も少なくなっています。

番号	学 校 名	番号	学 校 名
1	下田小学校	12	川登小学校
2	八束小学校	13	蕨岡小学校
3	竹島小学校	14	おおゆう小学校
4	なかすじ小学校	15	くちやない小学校
5	ひがしなか中筋小学校	16	おおみや小学校
6	なかむらみなみ中村南小学校	17	すさき須崎小学校
7	くどう具同小学校	18	つのかわ津野川小学校
8	なかむら中村小学校	19	かわさき川崎小学校
9	ひがしやま東山小学校	20	にしがほう西ヶ方小学校
10	としおか利岡小学校	21	ほんむら本村小学校
11	たのかわ田野川小学校		

なか むら
中村地いきの市街地の地図

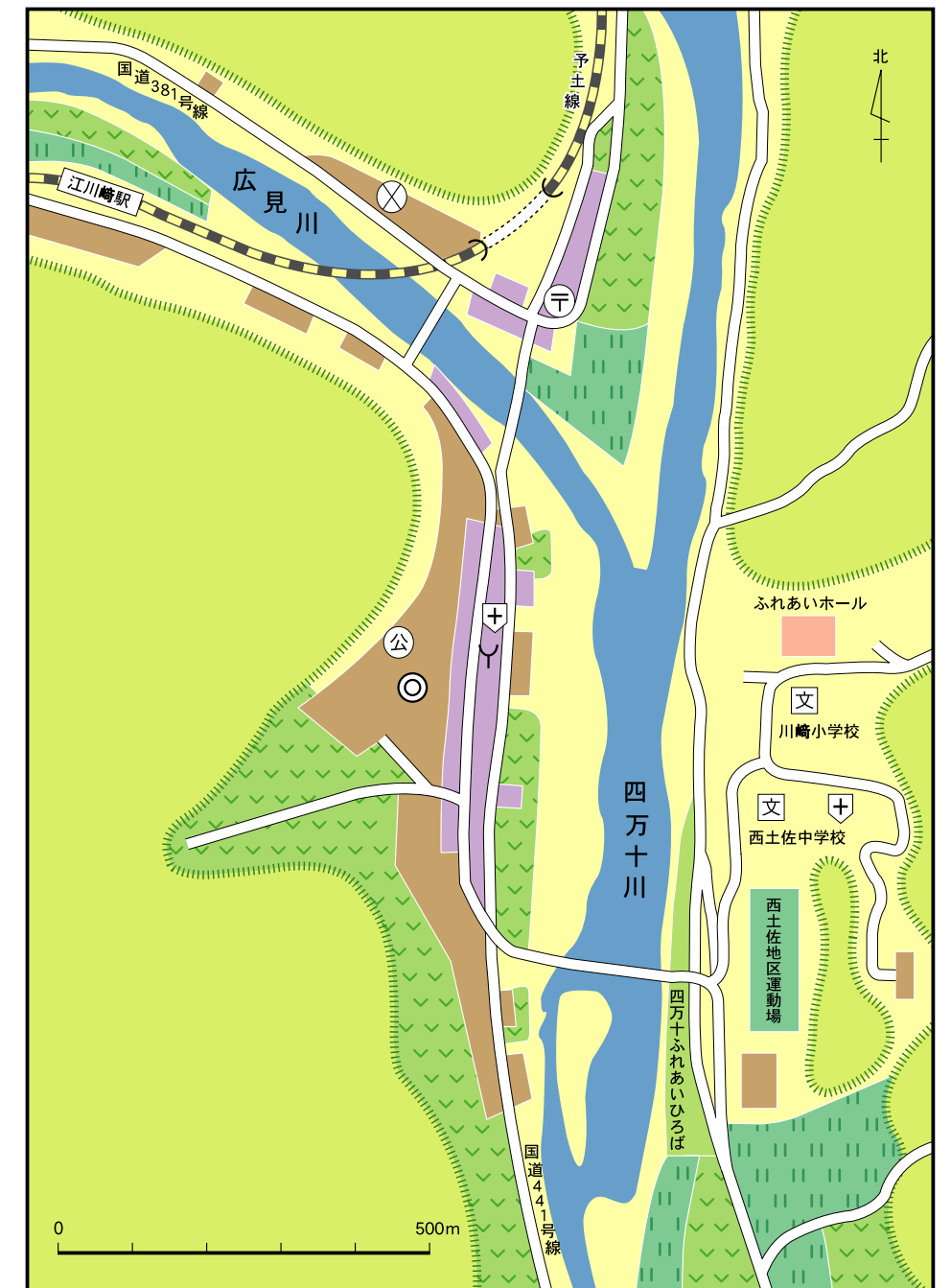


	学 校		びょう いん 病 院		あつ 店の集まっ ているところ		田
	さつ けい察しよ		じん じゃ 神 社		じゅう あつ 住たくの集 まっているところ		はたけ 畑
	しょう 消ぼうしよ		寺		山 や お か		し やく しょ 市 役 所
	びんきょく ゆう 便局		てつ どう 鉄 道		はし 橋		こう みん かん 公 民 館

地図を見てみ
ると、中村地い
きの市街地は四
万十川と後川の
間にあることが
わかるね。



にし と さ
西土佐地いきの江川崎の地図



	学 校		びょう いん 病 院		あつ 店の集まっ ているところ		田
	さつ けい察しよ		じん じゃ 神 社		じゅう あつ 住たくの集 まっているところ		はたけ 畑
	しょう 消ぼうしよ		寺		山 や お か		やく ば しょ 役場(し所)
	びんきょく ゆう 便局		てつ どう 鉄 道		はし 橋		こう みん かん 公 民 館

江川崎は、広見
川と四万十川が合
流した場所にある
ことが、地図から
わかるわ。



しまんとし おも のう さく ぶつ
四万十市の主な農作物



それぞれの土地
によって、いろい
ろな農産物を作っ
ていることがよく
わかるね。



	イチゴ		ナス		肉牛		ビニールハウス
	ユズ		トマト		にゅう牛		タバコ
	ナシ		ピーマン		ブタ		シヨウガ
	ミカン		ラッキョウ		ニワトリ		シントウ
	キュウリ		アロエ		米		オクラ
	クリ						シイタケ

2章 扉

An aerial photograph of a city, likely in Japan, viewed from a high vantage point. The foreground is filled with the branches of cherry blossom trees, some in full bloom with light pink flowers. The city below is a dense collection of buildings, including residential houses with tiled roofs and several taller commercial or institutional buildings. In the background, rolling hills or mountains are visible under a clear sky. The overall scene is bright and scenic.

2

わたしたちのくらしと市の施設



え かわ さきしゅうへん
江川崎周辺の地図



ゆうやさんたちは^{しまんとし}四万十市には、どのようなしせつがあるか調べることにしました。

なかむら し がい ち
中村市街地の地図



ちゅうおうこうみんかん ふく
 ゆうやさんたちは、中央公民館や社会福祉センター
 ・ほけんセンターが、わたしたちのくらしとどのように
 むす 結びついているかを調べることにしました。

ゆうやさんたちは、見学に行く前に知りたいことを話し合い、見学ノートを作りました。



- あいさつをし
よう。
- きまりを^{まも}る
う。
- 人にめいわく
をかけないよ
うに^{しず}かに話
を聞こう。

見学ノート

〈見てくること〉

●どんな部屋やしせつがあるか。

〈聞いてくること〉

●どんなことに使^{つか}われているか。

- どんな人が使っているか。
- どのよう

●どのようなもよおしがあ
るか。



ちゅうおうこうみんかん (2) 中央公民館

ゆうやさんたちは、中央公民館へ見学に行きました。



しまんとしりつ
四万十市立中央公民館



公民館のあるところ

1階



せい作室



だいかいぎしつ
大会議室



ロビー

2階



けん
研しゅう室



大ホール



わしつ
和室

3階



しちょう
くわん
室



研しゅう室



けんきゅうしつ
研究室

いろいろな
部屋があるん
だね。



中央公民館の館長さんの話

公民館は、市に住んでいる人たちが
学習したり交流したりする場所です。
ここで、子どもからお年よりまでがい
ろいろな活動をするなかで、ふれ合っ
たり交流したりしてほしいと思っています。

みなさんは、行事などに参加して、
気軽に公民館を利用してください。

ピアノのある部屋
では合唱サークルも
やっているんだね。



みんな楽し
そうだね。



公民館で活動して
いるサークルは、全
部で32ありました。
毎週決まった曜日
に公民館で活動して
いるサークルもあり
ました。

市民が参加するサークル活動

さくらさんのおばあさんは、毎週水曜日に公民館のホールで行われる「ダンスサークル」に出かけるそうです。

また、月2回の「絵画サークル」に参加している友だちのおじいさんは、公民館で行われる「四万十市展」に出品するため、家でも絵をかいているそうです。

公民館は、さまざまな人が集まって活動することで、いろいろな人が知り合ったり、しゅ味を生かしたりして、楽しく住みよい地いきづくりをする手助けをしています。



ダンス



ブレイクダンス



詩ぎん



ヨガ

公民館の行事に参加しよう

公民館の行事には、公民館の建物を使って行うものや、地いきに出かけたり乗り物を使って遠くに出かけたりして行うものもあります。



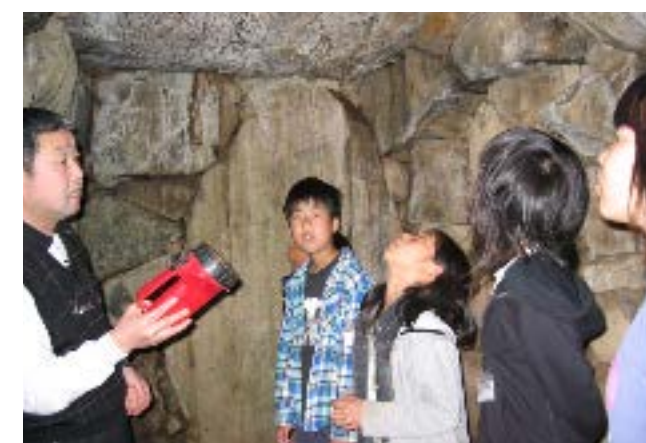
子どもえんげき祭



音楽祭



キャンプ



出前じゅ業



かち歩き大会



シルバー民よう教室

(3) 社会福祉センター

あゆみさんは、社会福祉センターから毎月「社協だより」が家に配られて来ることをおじいさんに聞きました。あゆみさんたちは、もっとくわしく知りたくなり、社会福祉センターを見学することにしました。

社会福祉センター（外観）



社協だより 「しまんと」



社会福祉センターのなか



あゆみさんのノート

市に住んでいるいろいろな人たちが集まって話し合ったり、こまっていることがあったら相談に来たり、みんなが健康で明るいまちづくりを行うためのしせつだそうです。



車いす体験



福祉ふれ合い合同運動会

たくやさんのノート

社会福祉センターの中には、社会福祉協議会があり、そこでは子どもや高齢者、生活にこまっている人やしょう害のある人たちのために、いろいろなボランティア活動もしているそうです。

社会福祉協議会の人の話

しょう害のある人たちの気持ちになって、自分たちがどうすればよいかを考えるきっかけにするために、車いす体験などを行っています。

また、住みよいまちづくりや「おたがいで助け合う気持ち」を持てるよう「四万十市福祉ふれ合い合同運動会」などもしています。そのほかにもみんなが安心してらせるまちづくりをするためにいろいろなことを行っています。

(4) ほ健センター

はるなさんたちは、西土佐地いきのほ健センターのしせつについて調べることにしました。まず、ほ健センターではどういう仕事をしているのか、電話でお話を聞いたり、パンフレットなどを送ってもらい、まとめました。

し まん と し 四万十市ほ健センター



ほ健センターの人の話

ほ健センターでは、地いきのみなさんが健康な生活を送れるよう手助けをしています。そのためにも、健康づくり運動をみなさんといっしょにしたいと考えています。

はるなさんのノート

◆ ほ健センターの仕事

- ・ 赤ちゃんのことにについてお母さんの相談にのる。
- ・ 赤ちゃんやわたしたちの健しんをする。(血あつやさい血、心電図など)
- ・ 健康について、お医者さんやほ健しさんといっしょに学習会をする。
- ・ ストレッチ体そうをしたり運動教室を開いたりする。
- ・ 子ども健康祭りで食べ物や健康について考えたり、料理教室で調理実習をしたりする。



とおるさんは、子ども健康祭りに参加して、わかったことをノートにまとめました。

とおるさんのノート

毎年夏休みに、小学5、6年生が実行委員となってほ健センターの人といっしょに何をするのか話し合い、子ども健康祭りを行っています。

今年は、実行委員が問題を考えて栄養〇×クイズをしたり、調理実習(レタスチャーハン、たまごスープ、ポテトサラダ、フルーツポンチ)をしたりしました。楽しく栄養のことを勉強しました。

調理実習では、ジャガイモやリンゴの皮むきがむずかしかったけれど、上手にできました。料理もおいしかったです。



子ども健康祭り

～料理教室での調理実習のようす～

郷土資料館



四万十川学遊館



幡多クリーンセンター



川の駅 カヌー館



3

わたしたちのくらしと買ひ物



グラフを見て、どんな仕事をする人が多いか調べてみましょう。

(1) 仕事調べ

四万十市では1万4000人（中村地いき1万3400人、西土佐地いき830人）以上の人が働いています。

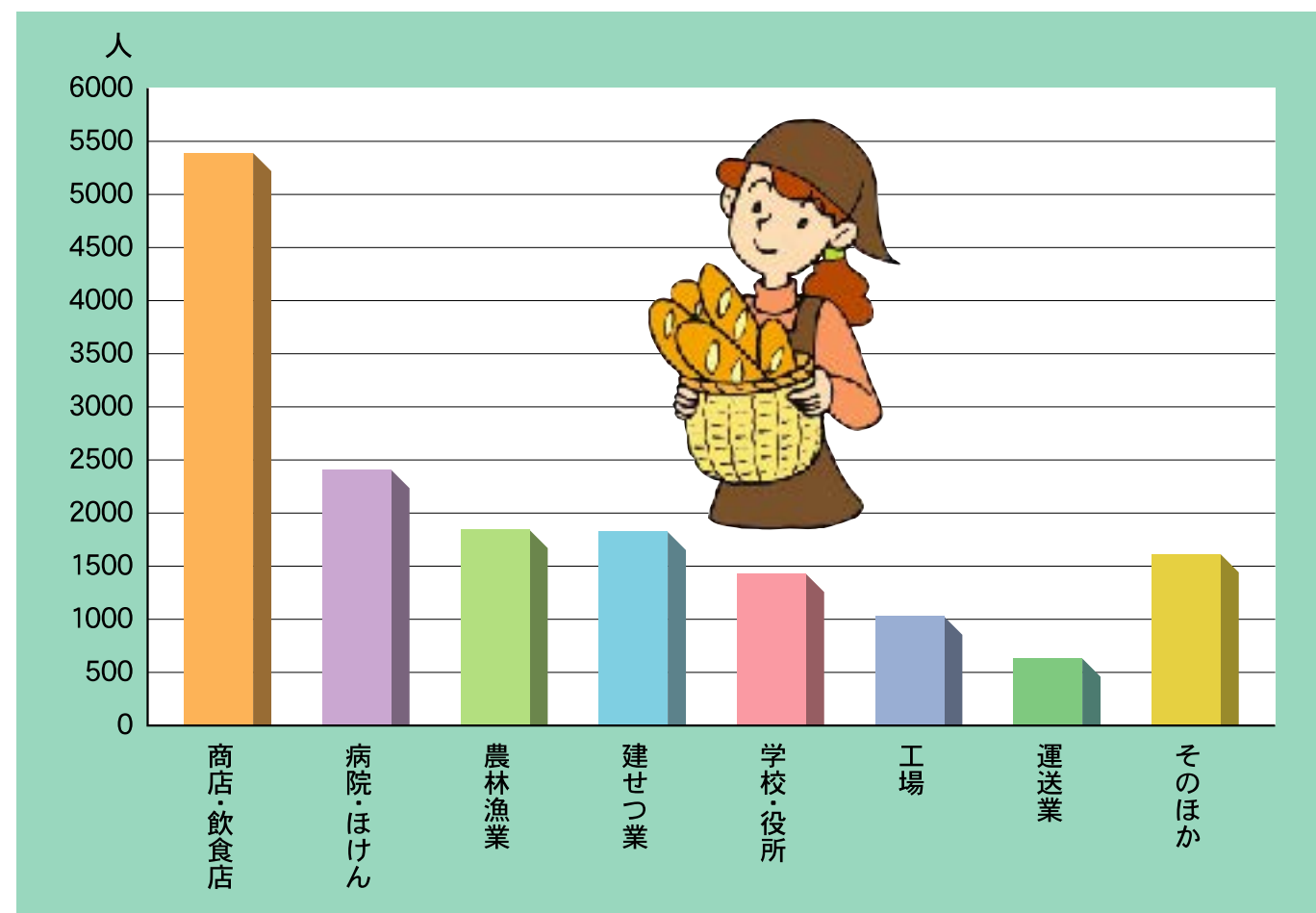
その人たちがどんな仕事をしているのかを下のグラフから見てみましょう。

グラフからもわかるように、商店や飲食店で働く人がたいへん多いことがよくわかります。

市全体の仕事調べ

(単位は人)

	商店・飲食店	病院・ほけん	農林漁業	建設業	学校・役所	工場	運送業	そのほか
2005年	5388	2386	1802	1794	1417	1017	620	1587



(2005年四万十市役所及び農林水産省「2005年世界農林業センサス」「第11次漁業センサス」等の調べ)

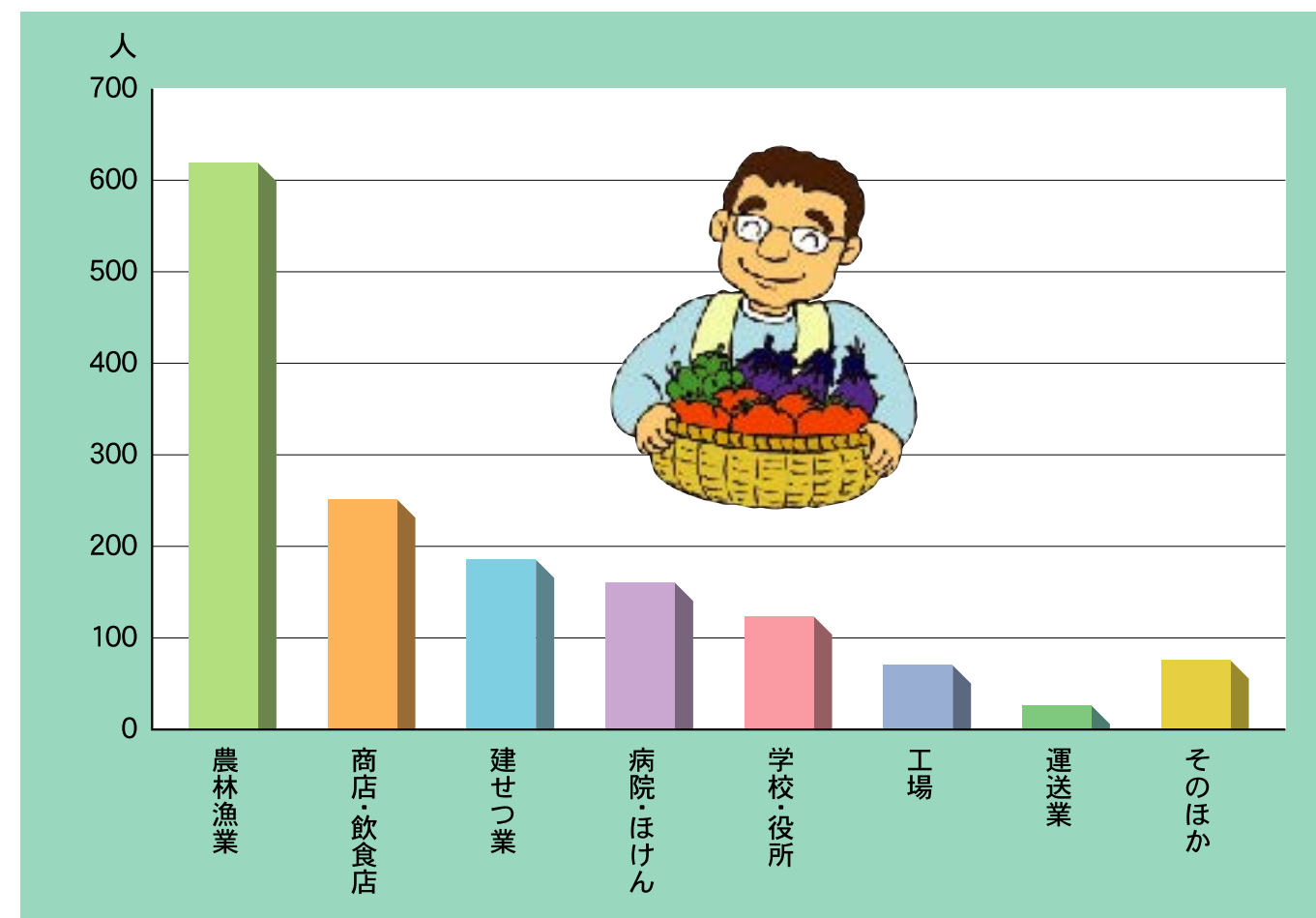
仕事は、人びとのくらしと深い関係があります。仕事調べのグラフを見てもわかるように、西土佐地いきでは、農林漁業の仕事をしている人が多くなっているなど、住んでいるところによって、仕事にちがいはあります。

みなさんの住んでいるところとくらべてみましょう。

西土佐地いきの仕事調べ

(単位は人)

	農林漁業	商店・飲食店	建設業	病院・ほけん	学校・役所	工場	運送業	そのほか
2005年	619	254	186	162	124	70	19	71



(2005年四万十市役所及び農林水産省「2005年世界農林業センサス」「第11次漁業センサス」等の調べ)



(2) 店調べ

中村地いきには、古くから、天神橋や京町・東下町・一条通などにたくさんの店があります。

中村駅ができてからは、大橋通や右山にもたくさんの店ができ、また、具同にだん地や住たくがふえてからはいろいろな大型店ができてきました。最近では、それが古津賀の方にも広がってきています。

西土佐地いきでは、店の多くが江川崎に集まっています。大型店やせん門店は少ないけれど、いろいろなものを売っている店があり、わたしたちの生活に必要な品物は、たいていそろっています。

四万十市の主な店の種類

(単位はけん)

種類		中村地いき	西土佐地いき
おろし売り業 (問屋)		111	0
飲食店		247	6
小売	食料品店	255	39
	衣料品店	111	5
業	電気・家具・建具などの店	63	6
	自動車・自転車店	61	5
そのほかの店		230	11

(2005年四万十市役所調べ)

市内の店の数は、中村地いきと西土佐地いきを合わせて、1150けんぐらいあります。とくに食料品を売る店や飲食店が多いことがわかります。

買い物調べるしかたを話し合
いましょう。



(3) 買い物調べ

自分の家では、どんな買い物のしかたをしているかを調べることにしました。

たくやくんは、家の人に聞きながら、1週間の買い物について、表にまとめてみました。

買い物調べカード

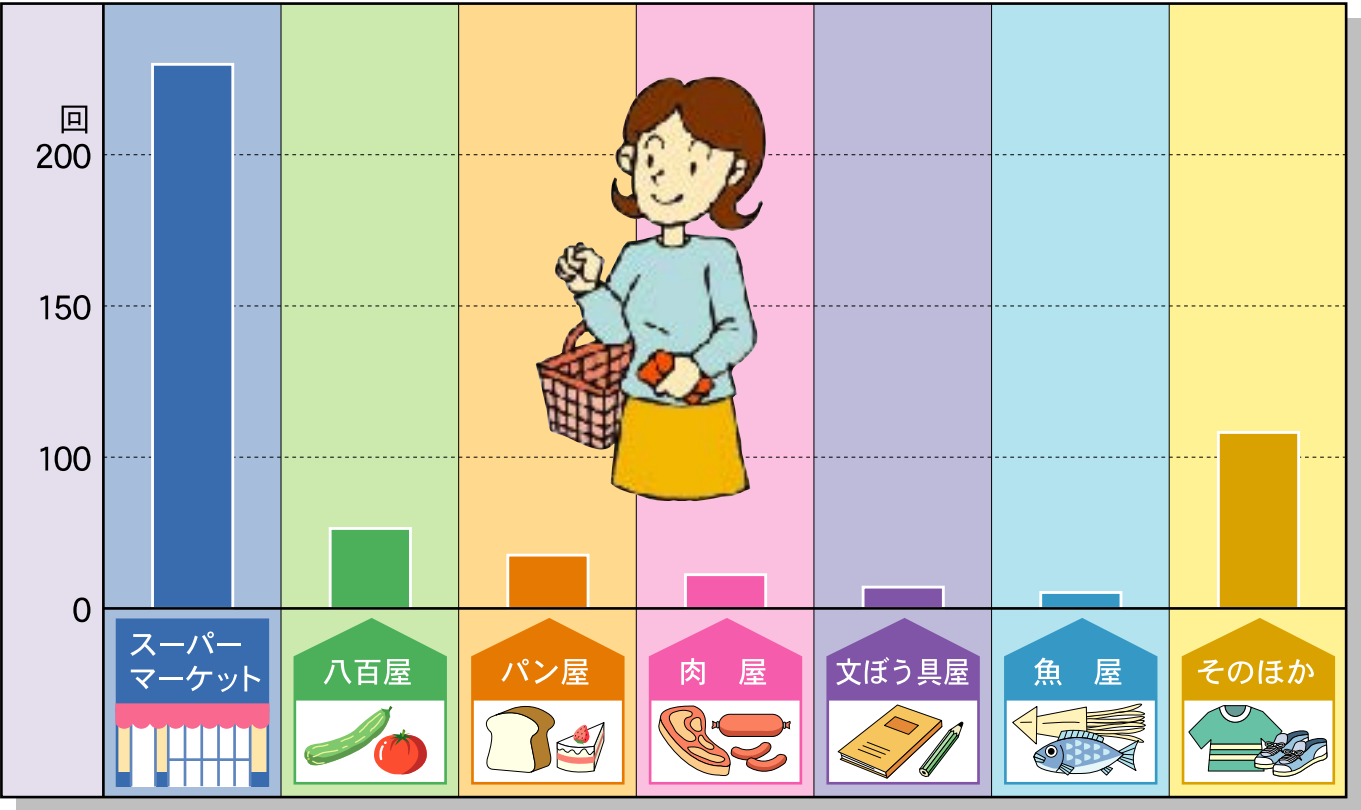
3の1 かみおか たくや

月 日	買った品物	買った店	店のあるところ
9月 9日(土)	牛にゅう、冷とう食品、牛肉、サラダ油、アイスクリーム	スーパーマーケット	近 所
9月10日(日)	ガム、アイスクリーム、カード	ざっ 貨 店	近 所
9月11日(月)	ビール	酒 屋	校区以外の店
	牛にゅう、キュウリ、ニラ、イカ、モヤシ、トマト、ジュース	スーパーマーケット	
9月12日(火)	牛にゅう、ブドウ、ネクタリン、ミョウガ、シャンプー	スーパーマーケット	校区以外の店
	げん関マット	ざっ 貨 店	
9月13日(水)	サンマ、モヤシ、シイタケ、ナス、ピーマン、牛にゅう、サバのかんづめ、おかし	スーパーマーケット	校区以外の店
9月14日(木)	牛にゅう、インゲンマメ、あつあげ、ジュース、アジのひもの	スーパーマーケット	校区以外の店
	スイカ	や 八 お や 屋	
9月15日(金)	マーガリン、牛にゅう、ラップ、パン、ぶた肉、じゃこ、ちくわ	スーパーマーケット	校区以外の店
	ぼうし、ブラウス	よう 洋 服 屋	

みんなどんな
物を買っている
のかな。

みんなで、買い物調べカードを持ちよって、学級全
体で、どの店でどのような買い物をしているかをグラ
フにまとめてみました。

店ごとの買い物回数



できあがった
グラフを見て、
気がついたこと
を話し合いまし
よう。



西土佐地いきでは、買い物調べをして、江川崎に売
っている物でも、中村の市街地や愛媛県へ買い物に行
くことが多いのに気がつきました。そのわけを考え、
次のようにまとめました。

- ① 大きな店やせん門店など多くの店がある。
- ② 品物が多く安いので、気にいったものが選べる。
- ③ 道路が良くなり、西土佐地いきからでも行きやす
くなった。
- ④ 買い物以外に、ほかのこともいっしょにできる。



スーパーマーケットは、売り上げをふやすために、どんな工夫をしているでしょう。

(4) 店の工夫

① スーパーマーケット

仕事帰りの買い物客などでたいへんこみあうスーパーマーケットでは、さまざまな工夫がしてあります。

自家用車で来る買い物客のために、広い駐車場を作っています。中には、夜おそくまで店を開いているところもあります。



駐車場が広いね。



いつごろまで
だいじょうぶな
のかな？



スーパーマーケットでは、買い物が一度ですむように、野菜や肉、魚、食料品、日用品などが、たくさんならべられていて、ねだんもすぐわかります。買い物客は、自分の買いたいものを自由に選ぶことができます。

さらに、お客さんに安心して買い物ができるように賞味期げんなどの点検をしています。

また、入り口に記入用紙をおいて自由に意見を書けるようにしています。そして、げん関口には、ゴミをへらす目的で、リサイクルできるよう器の回しゅうを行ったり、ラップやトレイをできるだけ使わないような工夫をしています。



いろいろなものが
たくさんあるね。



よう器を回収する箱

つうろ
通路が広いね。



天神橋の商店街では、売り上げをふやすために、どんな工夫をしているでしょう。

土曜夜市ではいろいろなものも行われているんだね。



② 商店街

中村地いきで、いちばん大きい商店街は、天神橋です。天神橋通りには、衣料品やかばん、はきものなどのせん門の品物を売る店がならんでいます。

店の人は、買い物客が品物を選びやすいように、ならべかたを工夫したり、店を明るくきれいにかざったりしています。店の中に音楽を流しているところもあります。

また、人目につきやすいようにかん板をかけ、新聞にチラシを入れたり、テレビを使ってせん伝などを行っています。

さらに商店街の人たちは、みんなでアーケードを作ったり、道をカラーほそうしたり、通りにかざりをつけたり、ベンチを置くなどしています。

アーケード街では、時間を決め、車を止めて、歩行者天国にして、買い物をしやすくしています。



おぼんのころや年のくれには、大売り出しや福引きをしたり、夏には土曜夜市、2か月に1回はフリーマーケットを行ったりして、大ぜいの買い物客を集める工夫もしています。

これらの工夫は、商店街の人たちでつくっている商店街しんこう組合が主にしています。しんこう組合では、新しい品物や店の仕事についての勉強会をしています。



500円券、1000円券の商品券



天神橋通り

次に、西土佐地いきの店では、品物を売るためにどんな工夫をしているかを調べました。ローカルスタンプや「西土佐地域通貨商品券」(WESTOSA)を活用し、大ぜいの人に地元で買い物をしてもらうような工夫をしています。

また、品物を配達してくれるお店もあります。さらに、オリジナル商品の開発や特産品のインターネットを使ってのはん売も進んでいます。



お店の人とお客
さんが、楽しそう
に話しているね。



③ その他

日曜日 日曜市は、今から45年くらい前、農家の
人が作った新せんな野菜を、直せつお客さんに安く買
ってもらおうと、市役所のよびかけで始まりました。

始めは、市役所の西がわの道ぞいに25けんの農家
が、市を開いていましたが、その後、1975（昭和
50）年からは、天神橋アーケードにうつり、今で
は、40けん以上の店がなっています。

おじさんの話

毎週、品物を店に出す
のはたいへんだけど、
日曜市を楽しみにしてい
るお客さんの喜ぶ顔が見
たくて、がんばっている
んだよ。

日曜日にお店
を出している人
たちは、どんな
心配事があるの
でしょう。



日曜日にならんでいる品物は、季節の野菜やくだも
の、野菜のなえが多く、かん物、なえ木、茶、は物、
薬草、なども出され、1年中、大人から子どもまでが
楽しめる市として、にぎわっています。

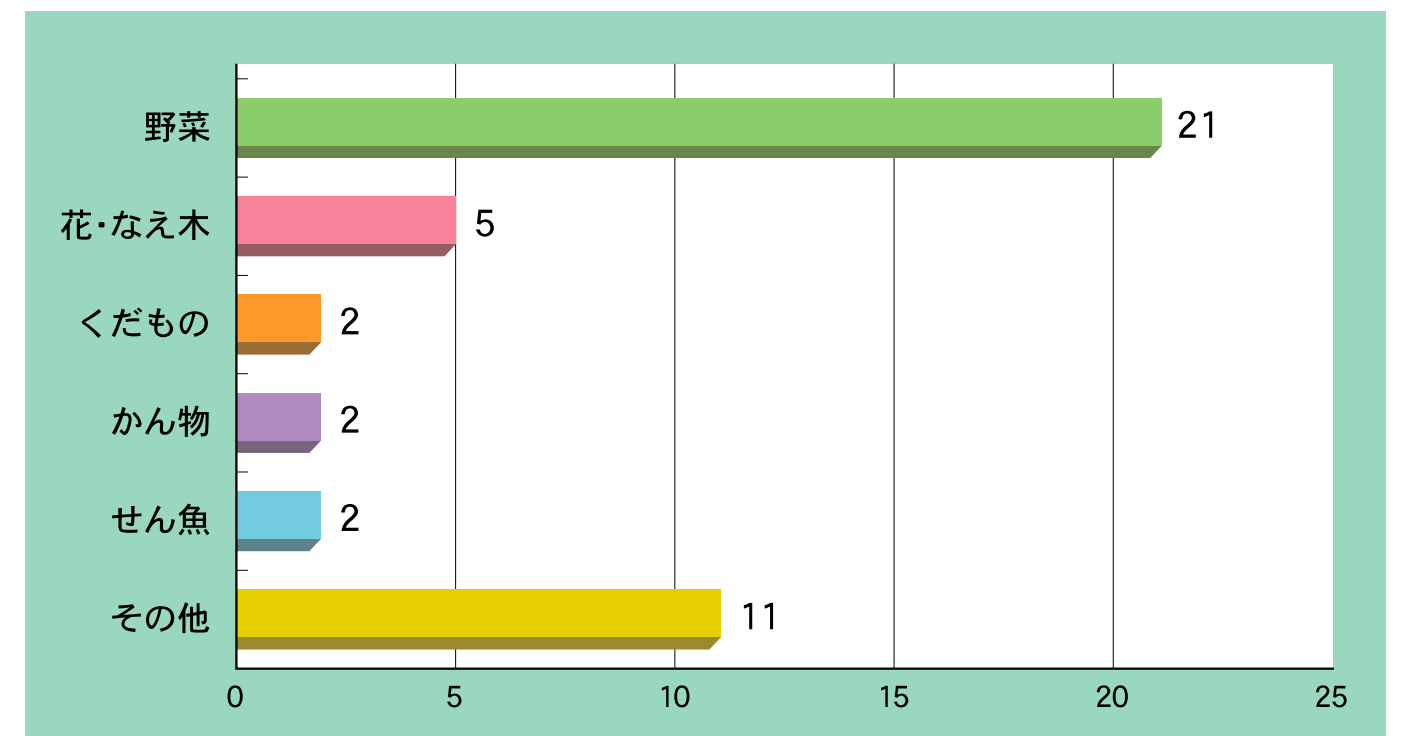
日曜日が開かれることで、天神橋商店街には、市内
外からお客さんがおとずれ、安くて新せんな野菜など
が買えると、喜ばれているし、おなじみのお客さんとの
会話を楽しみにしているお店の人
もいます。

しかし、最近は、大型店の進出や
各地に道の駅・ふれあい市などが生
まれ、お客さんの数がへってきてい
ます。店の人たちは、長く続いている市を
もりたてていくにはどのように
すればいいか、みんなでいろいろ
と考えているそうです。

かん物とは、ほし
た魚のことだよ。



日曜市の店の数



地産地消ってど
んなこと？



たくさんの人
が品物を出して
いるんだね。



品物を出し
ている人たち
は、どんな工
夫をしている
のでしょうか。

ふるさと市

にしとさ
西土佐のふるさと市は、2001（平成13）年
「りょうしんいち」（むじんいち）から始まりました。その後、
ゆうじんいち
有人市となり、地いきでとれたものを地いきで食べ
たり使ったりする「地産地消」の考えから、農作物
だけでなく、地いきの人がこじんてきでさぎょう
個人的に手作業で作った
ものなどもじゆうに出せる、地いきの店としてはっ
発てん
してきました。

げんざい、100人ほどが品物を出しており、売り
上げも年ねんのびてきています。

おもな品物は、きせつやさい
季節野菜やくだもの、のうさんかこうひん
農産加工品が
もっとも多く、もくざい
木材加工品、しゅげいひん
手芸品、草花のなえなど
もあります。

品物を出品している人は、品物がほかの人と重なら
ないように、じき
時期をずらして作ったり、出し方をくふう
工夫したりして、自分の出した品物が売れるのを楽しみに
しているそうです。

また、買う人からも、「新せんな野菜がやす
く買える」「手作りの品物が買える」など、よろこ
喜ばれており、
近くの町村からもわざわざ買いに来ている人もいる
そうです。

これからも、ふるさと市を中
心にして、地元にあるグループ
が、地いきにかか
に関わりのある野菜
やくだものを使って、商品を開
はっ
発したり、季節ごとにイベント
をひら
いて実えんはん売をするな
どして、地いきの人たちのこうりゆう
交流
と地産地消の取り組みをせっきよくてき
積極的に
すす
進めているところです。

きゃく
お客さんに喜ん
でもらえることが
いちばんだね。



ふるさと市



どんない動は
ん売車があるの
かな？



どう い動はん売

にしとさ
西土佐地いきには、小さなざっ貨店しかないところがあります。

そのため、食べ物などを売りに来る、い動はん売もあります。みなさんの近くでは、いつ、どのようない動はん売車が来るか調べてみましょう。

4章 扉





4

市の人たちの仕事

(1) 農家の仕事

① 農家のようす

わたしたちが住んでいる四万十市は、昔から米作りや野菜作りがさかんです。

四万十市の農家の人たちは、どんな作物を作り、どんな苦労や工夫をしているのでしょうか。

さとしくんの学級では、グループに分かれて、農家の仕事を調べることになりました。



蕨岡の水田

蕨岡のさとしくんの家も農家です。さとしくんの家では、おじいさんが、次のように話してくださいました。



おじいさんの話

うちは、昔から農業を続けてきました。古くからの農家は、今の家より庭が広く、「母屋」と「な屋」に分かれています。

米を作っている広い田は、昔の人たちが切り開いたものです。畑ではいろいろな種類の作物を作っています。



古くからの農家



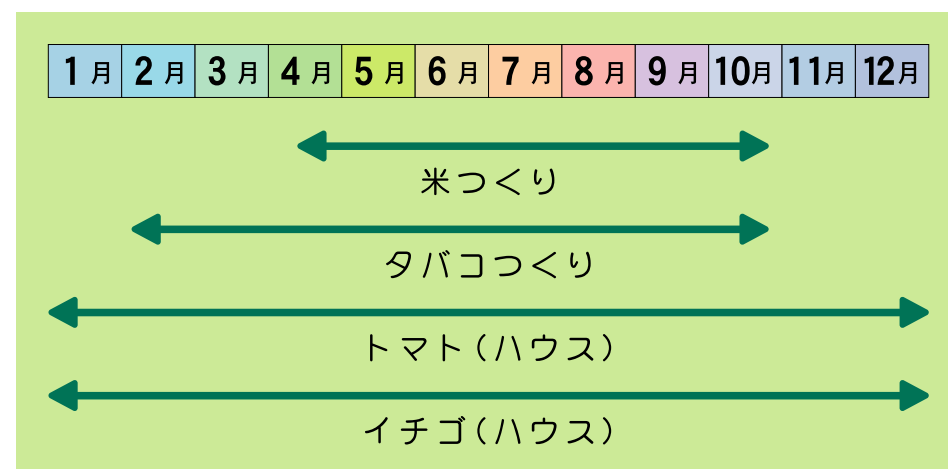
さとしくんたちは、^{わらびおか}蕨岡で作られている^{さくもつ ひょう}作物を表にまとめました。

この表から、^{のう か}農家ではたくさんの^{しゅるい}種類の作物を作っていることがわかりました。

また、みんなの発表からわかったことは、ハウスさいばいがさかんなことと、わたしたちが毎日食べている米は、ほとんどの農家で作っていることです。

さとしくんたちは、米作りについて、もっとくわしく^{しら}調べることにしました。

農家の1年間の仕事



蕨岡のビニールハウス

② 米作り

さとしくんは、お父さんから米作りについて聞きました。

さとしくんの家では、4月の中ごろに「^{たね}種もみ」をまいて、5月の中ごろに^{た う}田植えをします。最近では、ほとんどの農家で^{き つか}田植え機が使われています。

田植えがすんでからも、イネが^{びょう き}病気にかからないように^{しょうどく}消毒をしたり、^とざっ草を取ったりして、^{そだ}じょうぶに育つように気をつけています。

「ヒノヒカリ」という種類のおいしい米を作る農家がふえてきています。



田植えのようす

9月の^お終わ^{むかし}りから10月の^{はじ}始め^ところに^と取り入^いれを
 します。昔は、かま^{つか}を使^{つか}って、一かぶ一かぶ^いかり取^いっ
 ていましたが、今では、イネ^いかりとだ^いっこ^いくが一
 度^いにできるコンバイン^いも使^いわれるよう^いになりました。

このころにやってくるのが台風^{たいふう}です。苦^く勞^{ろう}して育^{そだ}てたイネが、ひとば^いんのうち^いに風^いでたお^いれたり、大
 水^いにつか^いたりします。台風^{たいふう}のときは、夜^いもゆっ^いく
 りね^いむれ^いません。

イネかりのようす



大水につかったイネ



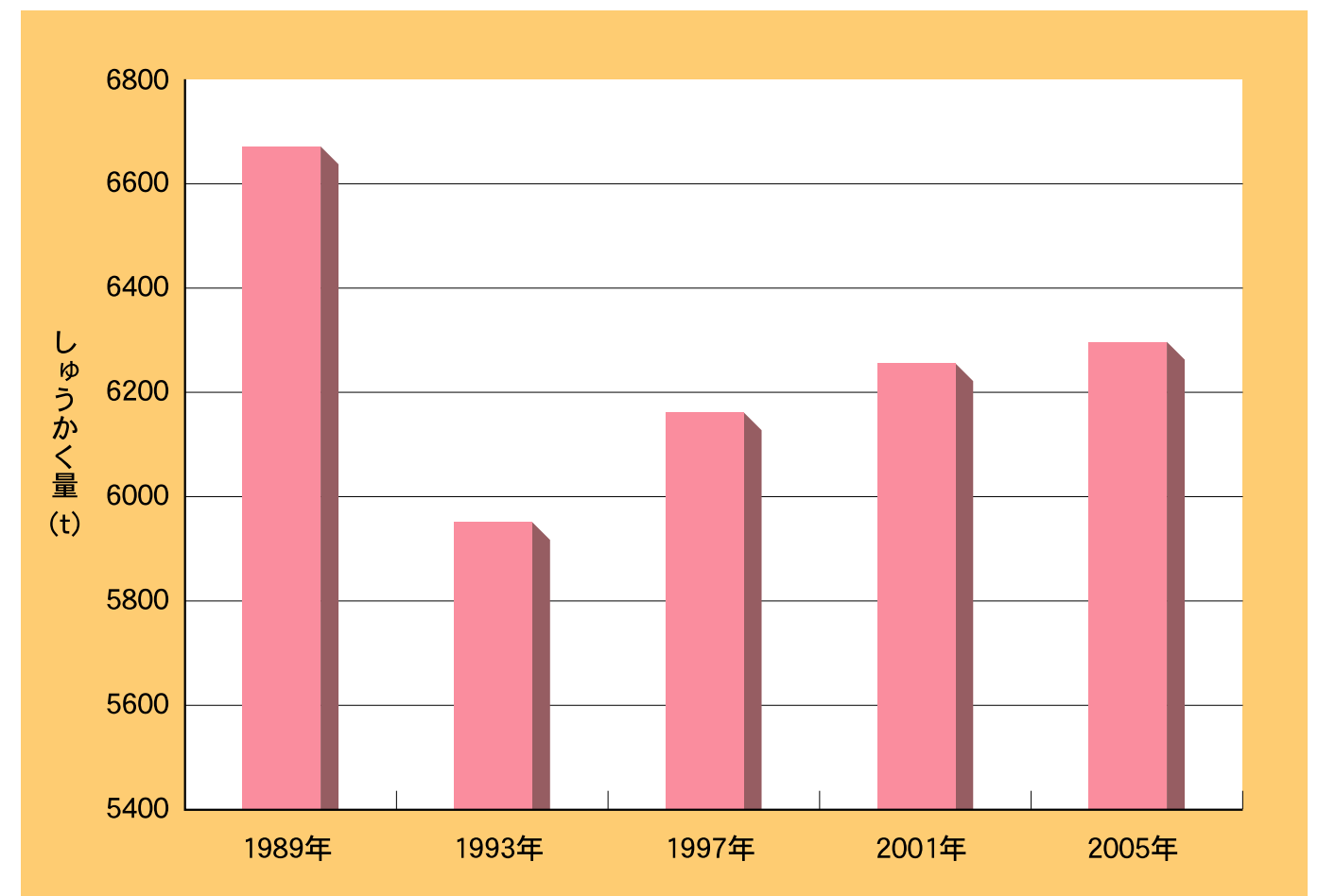
そばで話を聞いていたおじいさんが、昔の米作^いりの
 ことを話^いしてくださ^いいました。

さとしくんは、昔とちが^いってきたのはど^いんなと^いころ
 かをま^いとめてみ^いました。

さとしくんのま^いとめ

- こ^うん^き機^きやた^うちえ^き機^{かい}などの機^き械^{かい}を多^いく使^いうようにな
 った。
- 同^いじ広^いさの田^いでも、米^いが多^いくとれるようにな^いった。
- 米^い作^いりをせん^い門^いにする人^いが少^いなくな^いった。

し^しま^まん^とし^しの米^いのとれ^い高^い



③ 農家の人たちの願い

さとしくんたちは、^{わらびおか}蕨岡のほかにも米作りのさかんなところを調べることにしました。

先生が、「^{しまんと}四万十市には、^{うしろがわ}後川や^{なかすじがわ}中筋川にそって多くの田があります。」と話してくださいました。

りかさんのおじさんが、^{のうぎょう}中筋で農業をしているので、話をうかがいました。

りかさんのおじさんの話

中筋川ぞいには、^{むかし}昔からたくさんの田がありました。でも、土地が低いので、少しの雨でも田が水につかって、イネが実らなくなることが多く、農家の人はいへんこまっていました。

そこで、^{はたけ}田や^{すいがい}畑を水害から守るために、^{まも}ていぼうをつくったり、^{なが}水の^よ流れを良くするための川の^{こうじ}つけかえ工事などに取り組み、新しい川もできました。

今では、^{せいり}こう地^{すす}整理も進み、^{はいすい}水門や大きな配水ポンプもつくられ、^{あんしん}農家の人たちは安心して米作りにはげむことができるようになりました。

また、^{たいふう}台風がくる前に取り入れがすむように、早く実るイネを作るなどの工夫もしています。



さんざきひもん
実崎樋門（ひもん）



しょうわ
昭和 38 年台風 9 号による大こう水

このように、農家の人たちは米が多くとれることを願い、いろいろな工夫や努力をしていることがわかりました。

④ かわる農業^{のうぎょう}

さとしくんたちは、^{しまんとし}四万十市の^{のうか}農家の^{こすう}戸数についても調べました。

調べてみると、農家の数が年ねんへってきていることがわかりました。

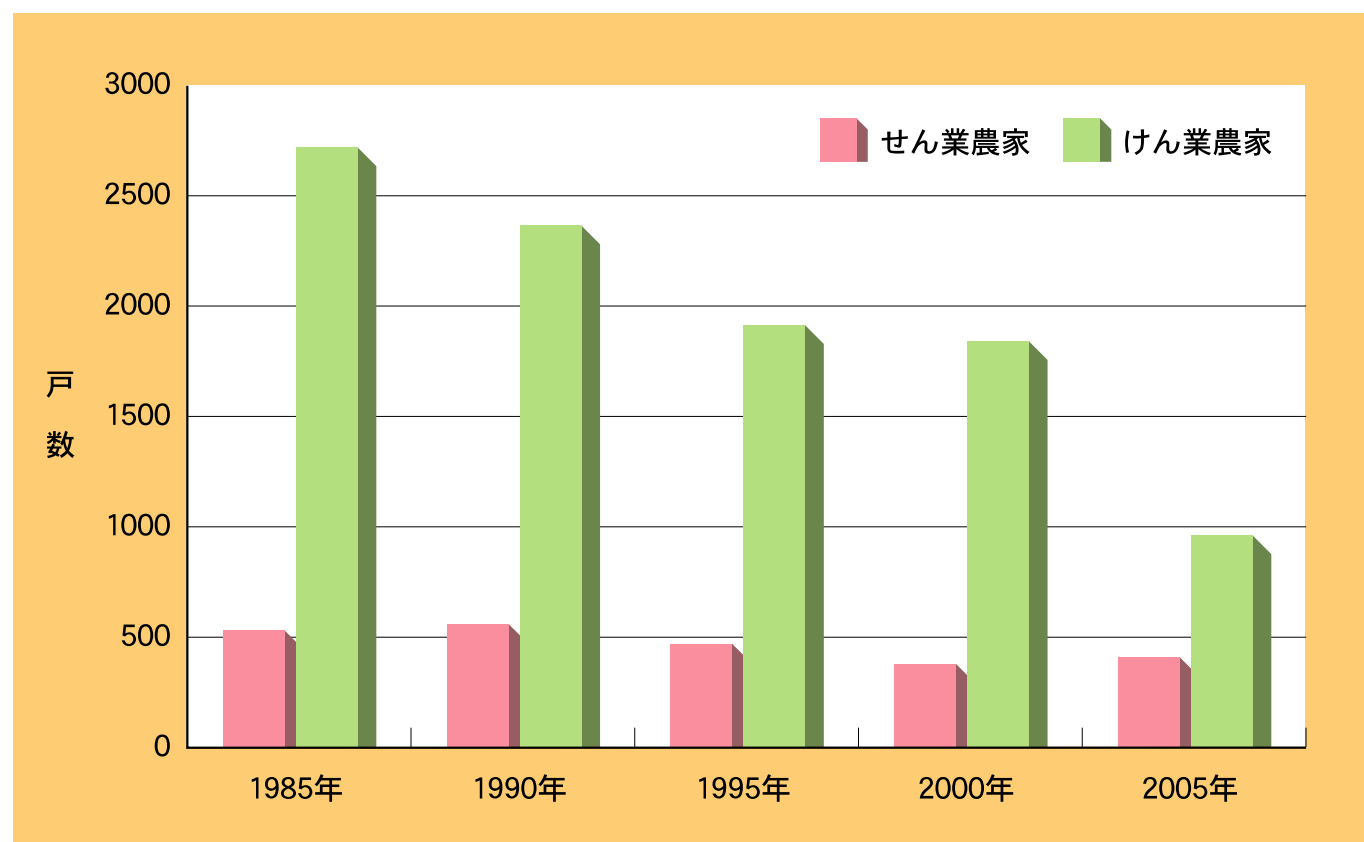
田^{はたけ}や畑^{はたけ}が少ない農家では、農業をやめてほかの^し仕事をする人も多くなっています。

また、米作りをやめて、ビニルハウスでトマトやイチゴなどを作る農家もありました。とれた^{やさい}野菜は、^{とうきょう}東京や^{おおさか}大阪などへ^{のうぎょうきょうどうくみあい}農業協同組合や^{いちば}市場からまとめて売り出しています。

みなさんも、近くの農家のようすを調べてみましょう。



四万十市の農家戸数のうつりかわり



(2) 山の仕事^{しごと}



郷土の森

郷土の森

四万十川のまわりには、昔からりっぱな天然ヒノキが育ってきました。
平成3年に藤ノ川地区の天然ヒノキ林を「西土佐郷土の森」として、大切に^{のこ}残していくことになりました。

西土佐地域には、およそ3500人が生活しています。田、畑、家などの^{めんせき}面積は少なく、ほとんどは山林で、山の仕事を大切にしてきました。

西土佐地区の山林のおよそ4分の1は^{こくゆうりん}国有林です。国有林以外の山は、^{いがい}民有林^{みんゆうりん}といえます。

たかしくんは、山の仕事について調べてみることにしました。

① 山の仕事のようす

藤ノ川地区の「郷土の森」には、「ヒノキ仙人」とよばれるりっぱなヒノキがあります。みきのまわり^{メートル}3m、高さ33m、じゅれい300年の大きな木で、日本を代表する100本の^{だいひょう}大木に数えられています。

たかしくんは、藤の川森林事^{じしよ}務所で仕事をしているおじさんに、木を^{そだ}育てる仕事について^{せつめい}説明してもらいました。



藤ノ川地区の位置



郷土の森のヒノキ仙人

木を育てる仕事



植える場所の整理



植林



下がり



じよばつ



間ばつ



植林した林

② 木を育てる仕事

木を育てる仕事には、植林、下がり、じよばつ、間ばつ、えだ打ち、ばっさいなどの作業があります。

かりはらったざっ草や低い木、切った木のえだなどをきれいにし、植える場所を整理します。そこにヒノキ、スギ、ケヤキ、クヌギなどの木のなえを植えることを植林といいます。

下がり、植えたあと7年間、なえがざっ草に負けないよう、夏にざっ草をかりはらうことです。今では、かりはらい機という機械も使うので、仕事が速くなりましたが、昔は、むねくらいまである長い「ぞう林がま」を使っていたのでとても時間がかかりました。

じよばつは、植えてから10年目、15年目になえより大きくなったざつ木を切りたおすことです。

間ばつは、植えてから20年以上たった林の、育ちの悪い木や曲がった木を切りたおして、元気な木に日光や養分が行きわたるようすることです。

そして、スギは45年、ヒノキは50年くらい大



ばっさい



切に育てます。生長した木を切り出すことを、ばっさいといいます。ばっさいしたあとは、木を2m、3m、4m、6mなど同じ長さに切って集め、トラックで運び出します。

おじさんの話

りっぱな木を育てるためにはいろいろな作業がありますが、木材をあまり使わなくなったり、安い外国の木材をゆ入するようになったりしたので、山で木の仕事をする人が少なくなりました。

そのため、十分に世話ができない山もふえており、間ばつを進めるために、国や県が補助金を出すなど、山を守る取り組みが進められています。また、最近、シカがふえて、木の皮を食べてからしてしまうことが大きな問題になってきています。

西土佐地区では、四万十川森林かんきょうほ全ふれあいセンターの人たちが、小・中・高校生たちといっしょに、シカのひ害を受けた山に木を植えたり、大事な木を守ったりする作業をしています。

みなさんも、機会があれば山に来て、木や山の仕事に関心を持ってほしいですね。



シカによる食害



木を植える子どもたち



四万十川

(3) 川の仕事

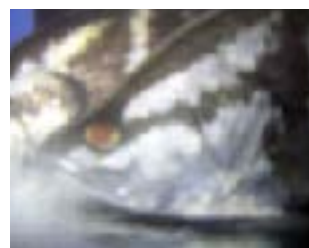
① 清流四万十川

四万十川は、四国の西南地いきを流れる、長さ196kmの川です。

津野町不入山のげん流点から、四万十町・四万十市へと、大きく曲がりくねりながら流れ、太平洋に注いでいます。四国でいちばん長い川です。

昔から、人びとのくらしは、この川と大きな関わりをもってきました。

具同・入田・古津賀などの川辺には、大昔の人びとが住んでいたいせきがあります。このいせきから、人びとは米作りをしたり、川の魚や貝などをとった



アカメ



舟母



とれたアユ



りしてくらしていたことがわかります。

また、交通が不便だったころは、「舟母」やいかだで、木材や木炭をか口へと運んでいました。

今でも、この川には、180種類をこえる魚がいます。中には「アカメ」といって、全長が2mにもなるめずらしい魚もすんでいます。

そして、火をふりかざしながらアユをあみに追いかむ「火ぶり漁」、木のえだを束にして水中につけておく「しばつけ漁」、小ぶねのへ先からあみを投げ、魚をつかまえる「投あみ漁」、ウナギをねらう

「石ぐろ漁」や「ころばし漁」などが、昔から伝わる川漁として残されています。



しばつけ漁



投あみ漁

四万十川でとれる魚やアオノリなどは、川辺に住む人びとのしゅう入にもなっています。

ゆたかな自然の風景が広がり、きれいな水や、たくさんの水産物にめぐまれたこの川は、「日本最後の清流」として、日本全国の人びとにも親しまれています。

アユ漁の方法

- 友づり
- しゃびき
- 火ぶり
- 地引きあみ



アユ漁

② アユ漁

四万十川はアユがたくさんとれることで全国的に有名な川です。毎年5月中ごろからは、たくさんの人びとが出てアユ漁を楽しみます。

また、落ちアユ漁が始まる11月中ごろには、この日を待ちかねていたかのように、朝早くから四万十川鉄橋付近には、たくさんの人びとが集まってにぎわいます。

しかし、最近では、ブラックバスなど外国から入った魚がふえたり、川がよごれてアユがすみにくい川になってきています。



アユ漁



アオサの養しよく

③ アオノリ (スジアオノリ)

河口から8 kmくらい上流までは、川はばも広く、流れもゆるやかで、海水と真水がまじっています。そこは、アオノリが育つのにてきしており、かおりも味も良い自然のアオノリが多くとれます。



アオノリとり

アオノリは、12月から3月ごろまでの寒い時に、川の中へ入って、かぎに引っかけてとり、それを川岸でほします。

四万十川でとれるアオノリは、かおりも良く、味もすぐれているので、たいへん喜ばれ、主に県外へ売り出されています。

アオノリとりのおばさんの話

このごろは、昔ほどアオノリがとれなくなってきました。

四万十川の水の量が少なくなっているので、雨のふらない日が続くと、真水が少なくなり、その分だけ海水が入って塩分がこくなるので、良いアオノリが育ちません。

アオノリが少なくなってきたので、かわりにアオサ（ヒトエグサ）の養しよくがさかんになりました。

また、アオノリと同じように、アオ

サも1月から3月ごろまでの寒い時に多くとれます。

河口では引きしおの時、アオサが水の上に出るように、あみやつなをはりめぐらせて養しよくしています。

とれたアオノリやアオサは、晴れの寒い日の北風がふいている時にほして、1日で仕上げるのがいいです。少しでも雨にぬれると、おいしくできないからです。

④ 観光 かん こう

「日本最後の清流」とよばれる四万十川には、毎年たくさんの人びとがおとずれます。

四万十川で楽しくすごし、喜んで帰ってもらえるようにと、川のほとりには、たくさんのしせつがつけられています。

屋形船やかたふねやほかけぶねせん舟母のに乗っての約1時間の船旅では、昔から伝わる川漁かわりょうを間近に見ながら、川の景色を楽しんだり、とれたての魚りょうりを料理して味わったりすることができます。

キャンプ場や川原では、夏になると、たくさんのテントがはられ、水泳やつりなどの川遊びを楽しむ人びとや、カヌーで川下りをする人びとで、たいへんにぎやかになります。

舟母



屋形船



カヌー



キャンプ場

四万十市をおとずれた人の話 しまんとし

*山はきれいだし、水も空気もきれいだし、とてもどこかで自然がいっぱい
ですね。すごくゆたかな気持ちになりました。 し ぜん
(神奈川県の方)

*あこがれの四万十川に、やっと来ることができました。川はばが広いのに
びっくりしました。空気がきれいで気持ちがいいですね。一生の思い出に
なりました。 いっしょう
(大阪府の方)

*屋形船に乗って、目の前で川漁を見ることができて、楽しかったです。カ
ワノリやカワエビの天ぷらが最高においしかったです。 かい
(香川県の方)

(4) 工場の仕事

四万十市^{しまんとし}内には、およそ100ぐらいのいろいろな工場があります。

食料品工場^{しょくりょうひん}やせんい工場^{せんい}、木材・木せい品せいぞう工場^{もくざい}などが中心で、大都市^{だいとし}から遠くはなれており、道路^{どうろ}も整^{せい}びがおくれたりしたため、よそから来た大きな工場はほとんどありません。

30年くらい前から、公害^{こうがい}の少ないほうせい工場や電子工場などがつくられるようになりました。

① ほうせい工場

具同^{ぐどう}・東山^{ひがしやま}・蕨岡^{わらびおか}・下田^{しもだ}・有岡^{ありおか}のほうせい工場が、1996（平成8）年に具同の自由ヶ丘ニュータウン^{へいせいじゆうがおか}に日本メリヤスの工場として1つにまとまりました。げんざい^{げんざい}は、約110人が働いていて、そのうち35人が中国から働きに来ています。

日本メリヤスの工場



りえさんのお母さんも、日本メリヤスの工場で働いています。

お母さんは、8時15分から夕方5時まで働いています。「工場では、おしゃれなブラウスをぬっているのよ。」と話してくれました。

わたしたちは、日本メリヤスの工場の仕事について知りたくなって、お話を聞くことにしました。



お母さんの話

わたしのつとめている工場では、ふ人服^{ふく}を中心にぬっています。工場の中には、ブラウス、Tシャツ、スカート、しん士用^{しんし}スラックス、スポーツウエアなどをぬっているところもあります。



働いている様子



トラックで運ばれて来た広いぬのを大きなさいだん機を使って、決まった大きさに切ります。

このぬのを何十まいも重ねて、型紙をパソコンで作成し、カッターで切ります。一度にたくさんのぬのが切れていきます。

それをお母さんたちがミシンでぬっていきます。えりをぬう人や、身ごろをぬう人など、いろいろな部分に分かれて、順じゅんに手ぎわよくぬっていきます。

ボタンをつける人、アイロンをかけてのばす人など、たくさんの仕事をみんなで分け合って進めています。

こうして、すてきなブラウスができあがります。



さいだん機でぬのを切っているところ

お母さんたちは、なれた手つきで、とてもかん単そうに、次つぎにぬっていきますが、細かい手仕事を一日中続けるのはたいへんです。

できあがったせい品は、日本の各地の店に、トラックで送られていきます。また外国へ送り出している商品もあります。



できあがったせい品



運ばれてきたぬのなど



せい品（ブラウス）



アロインス製薬の工場

② 化粧品工場

四万十市間崎に化粧品などを作っている工場があります。めぐみさんたちは、工場見学に行って、おじさんからいろいろな話をうかがいました。

化粧品ができるまで

何十種類の原料+四万十川地下深そう水

調合（まぜあわせる）

じゅうてん（入れ物につめる）

包そう仕上げ



できあがった化粧品



おじさんの話

この工場は、2001（平成13）年につくられ、四万十市内をはじめ近くの市町村から約40人の人が働いています。

主に化粧しょう品やシャンプー、ボディソープなどを作っています。またできた化粧品については、国内をはじめ外国でも売られています。

美しい四万十川の水を使い、工場から出るはい水には、ろかする作業を行い、安全をかくにんしてから川にかえしています。毎日新せんで安全な化粧品を作るように心がけています。



ビンにつめる仕事



包そう仕上げ室

わたしたちの生活
を守る消防士の
仕事について調べて
みましょう。



四万十消防士

(5) 安全を守る仕事

① 消防士の仕事

四万十市には、四万十消防士と西土佐分士の二つの消防士があり、各地区には消防団があって、火事からわたしたちを守る仕事をしています。こういちゃんたちは、消防士の見学に出かけました。

消防士では、働く人の仕事について聞いたり、火事のげん場に早く着くための工夫を調べてみました。

調べること

- 消防士で働く人の仕事について聞く
- 火事を早く消すための工夫をさがす
- 消防士のせつ、せつびを調べる

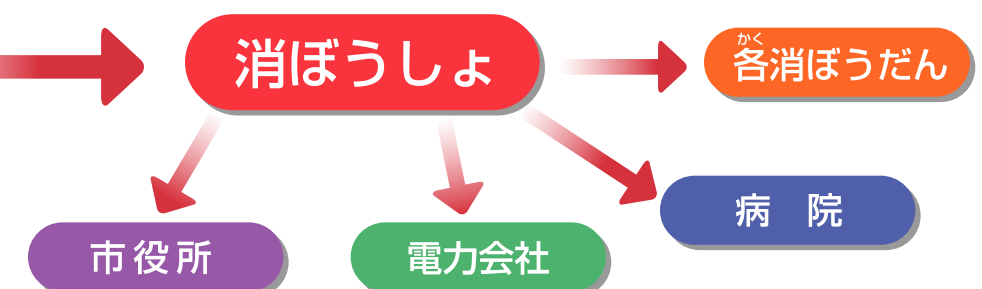
119番のしくみ

- ① 119番の電話が入ると、消防士に知らせます。
- ② 無線で火事の起きている地区のサイレンを鳴らし、消防士に指令を出します。
- ③ 市役所、電力会社、病院、けい察しょなどいろいろなところに連らくをとり、消火や救助活動がしやすいようにします。

さい害が大きくな
らないようすば
やく対おうしてい
るんだね。



119番のしくみ



消防士の仕事は、みんなの命やざい産を守ることです。火事になった家を消防車で消火したり、ケガをした人のところへ救急車で助けに行ったりすることが仕事です。そのほかにも、火事をふせぐための仕事もしています。

消防士の人の話

火事やケガ人は、いつ発生するかわかりません。そのため、消防士で働く人たちは、二つのグループに分かれて24時間体せいできんむしています。

いつでも出きんできるように、消防車や救急車の点けんをしたり、火事やさい害にそなえた訓練をしたりしています。

また、消火せんやほう火水そうを調べたり、ガス、油などのきけん物や消火器の取りあつかいの指どうなどもしています。

学校に来て、ひな
ん訓練を手伝って
くれることもあり
ます。

火を消すだけが
消防の仕事では
ありません。



消防車

こういちゃんたちは、消ぼうしょの仕事や119番のしくみについて説明してもらったあと、消ぼう隊員と救急救命士さんに話を聞くことにしました。

消ぼう隊員さんの話

出動の合図があると、火事の場合、消火せんや水そうなどの位置、道順をかくにんして出動します。水が少ないところや水が近くにない時は、水の中けいしながらの消火もします。

火事を早く消すことはもちろんですが、ケガ人が出ないように心がけています。また消火中はけい察しょなどとも協力して、早く火事を消せるよう努力しています。

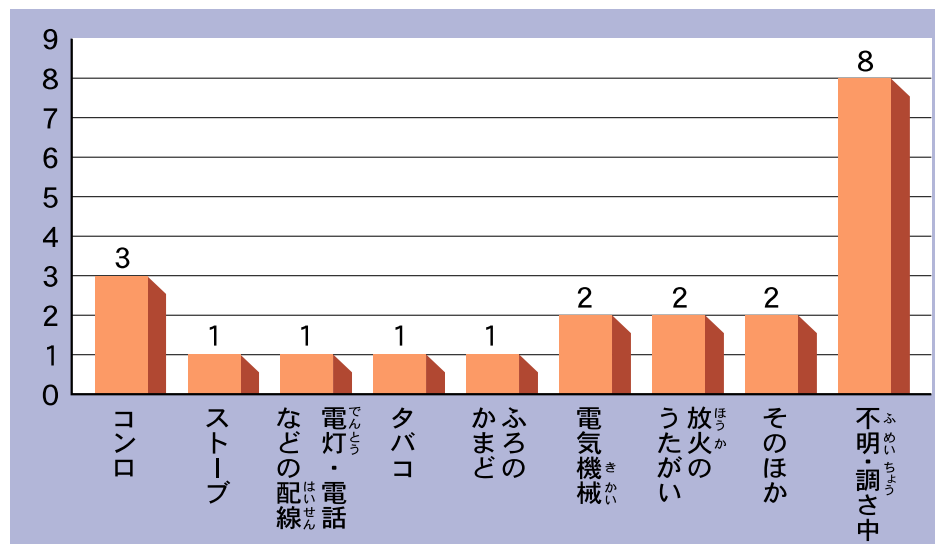


消ぼう隊員

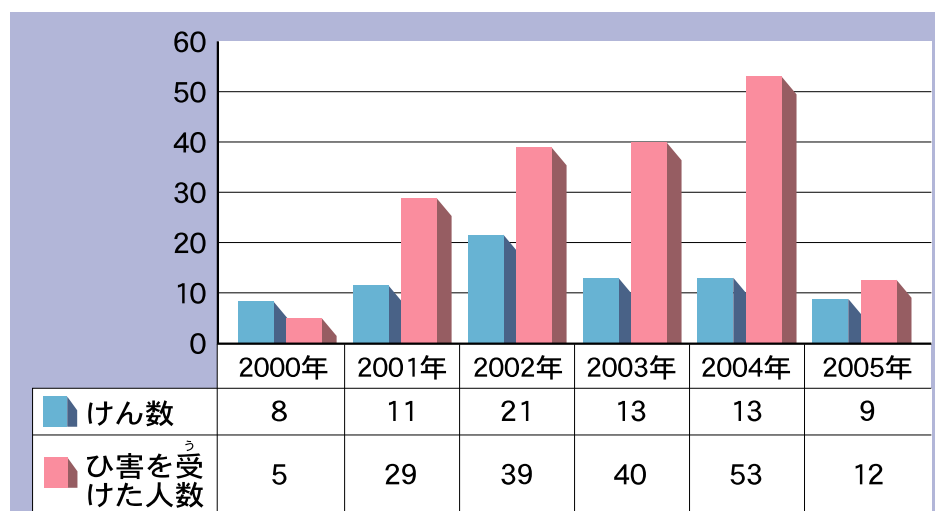
火事のいちばんの
原因は何だろう？

火事は、たくさん
の人にひ害をあたえ
ているんだね。

平成17年度 火事の原いん



建物の火事と人のひ害



救急車の中

救急車



救急救命士さんの話

四万十消ぼうしょには、10名の救急救命士がいます。知らせを受けると3人の救急隊員が救急車で出動します。救急車の中には、いろいろな道具があり、手当をしながら病院へ運びます。心ぞうが止まっている人を助けるために電気ショックをすることもあります。

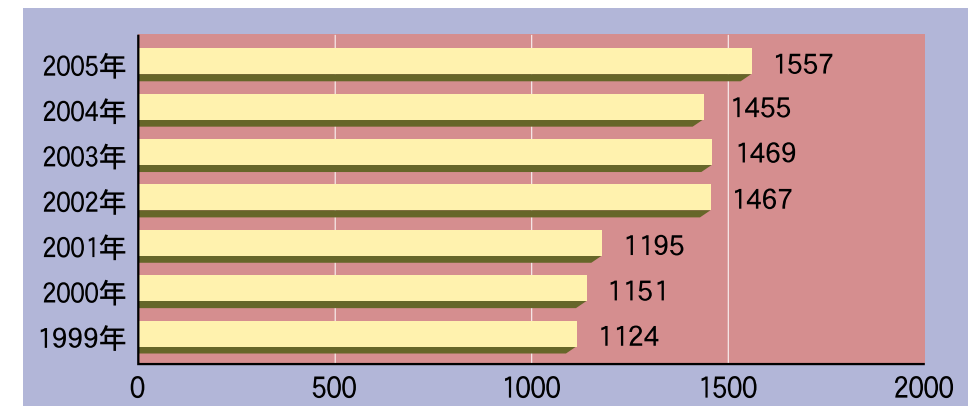
ふだんは病気やケガについて勉強したり、手当の訓練をしたりします。学校に出かけたり、市民のためにおう急手当の学習会も開きます。

救急の仕事は、たいへんですが、とてもやりがいのある仕事です。運んだ人が助かった時は、何よりうれしいです。



救急車の出動はと
ても多いんだね。1
日に何回も出動して
いるんだね。

救急出動けん数



こういちゃんたちは、消ぼうしょでいろいろなし料をもらったので、学校に帰って話し合うことにしました。



消火せん



ぼう火水そう

学校や家の近くに、消火せんやぼう火水そうがないかどうか調べてみよう



こういちくんたちは、道を歩いていて「消火栓」と書かれた鉄のふたを見つけました。

消ぼうしょに電話して聞いてみると、火事のかしき消ぼう車が水を取るために作られていると教えてくれました。同じ目的で作られているものに、ぼう火水そうがあるそうです。

こういちくんたちは、消火せんとぼう火水そうについて調べてみました。

各地区の消火せんとぼう火水そうの数

地 区	消火せん	ぼう火水そう
中 村	139	53
具 同	103	38
八 束	48	19
東 中 筋	41	15
中 筋	26	22
東 山	84	31
下 田	73	27
蕨 岡	0	18
富 山	3	13
後 川	20	22
大 川 筋	20	15
竹 屋 敷	0	1
川 崎	10	11
津 野 川	0	6
大 宮	0	7
江 川	0	7
黒 尊 川	0	5

2005（平成17）年度の数

各地区の消ぼうだん員の定数

地 区	消ぼうだん員
中村地区	
本 部	6名
中 村	75名
具 同	30名
八 束	40名
東 中 筋	30名
中 筋	35名
東 山	30名
下 田	60名
蕨 岡	30名
富 山	30名
後 川	30名
大 川 筋	30名
竹 屋 敷	14名
計	440名
西土佐地区	
本 部	3名
川 崎	29名
津 野 川	33名
大 宮	30名
江 川	27名
黒 尊 川	32名
計	156名

たくさんの方が消ぼうだんに参加しているんだね。



こういちくんのおじさんは消ぼうだんで活動しています。こういちくんは消ぼうだんの仕事について調べてみることにしました。

市内には17の消ぼうだんの分だんがあり、それぞれの分だんで、地いきを守る活動をしているそうです。

こういちくんはおじさんに話を聞いてみました。

消ぼうだんのおじさんの話

消ぼうだん員は、みんな会社で働いたり、店の仕事や農業などの仕事をしています。火事が起きたり水害などのさい害があったりすると、急いでげん場かけつけて、消ぼうしょの人が来るまで、消火活動をしたり、けいかいにあたったりします。

ふだんは、消火訓練をしたり、消火せんを調べたり、消ぼう車や消ぼうポンプの手入れをしたりして、火事にそなえています。



消ぼうだんの訓練

わたしたちの生活
を守るけい察の仕事
について調べてみま
しょう。



中村けい察しよ



四万十市・黒潮町地図

② けい察しよの仕事

たかしくんは、学校の交通安全教室で、けい察の方に交通ルールや自転車の正しい乗り方を教えていただきました。

けい察の仕事は、交通指どうのほかにもどんなことがあるのか知りたくなり、けい察しよを見学に行くことにしました。

けいむ課の方に案内していただいて、始めにけい察の仕事について話を聞きました。中村けい察しよの受け持ちの地区は、四万十市と黒潮町です。中村けい察しよは、下の表のように6つの課に分かれています。けい察しよの大きさによって、課の数は少しちがうそうです。

けい察の仕事

けいむ課	けい察からのお知らせなどの事むの仕事、けい察官やけい察の仕事の管理などをする。
地いき課	パトロールやちゅうざい所の仕事をする。事けんが起きたときには一早くげん場へかけつけ、町の安全を守る。
会計しよむ課	落とし物をあずかったり、けい察の仕事に必要なお金を計算する。
交通課	交通安全教室、交通違反の取りしまりなどを行い、交通事こをふせぐ。
けい事生活安全課	とうなんなどのはんざいのそうさや取りしまり、ぼうはん運動や少年の指どうをする。
けいび課	さい害対さくやけいびを行う。

家の近くにもちゅうざい所があるよ。学校にもときどき見回りに来てくれるよ。



●ちゅうざい所の仕事

次に、たかしくんたちは、地いき課の係の方から、ちゅうざい所の仕事について話を聞きました。

わたしたちにいちばん身近にせっしてくれているのは、ちゅうざい所にきんむしているけい察官のみなさんです。

ちゅうざい所のけい察官は、事けんや事こ予ぼうのためパトカー、オートバイ、自転車、徒歩などでパトロールしたり、各家庭や会社、店などをまわって、こまったことがないか聞いているそうです。

また、事こやさい害の時に役立てるため、たくさんある家庭のようすをきちんと知っておくよう、努力しているそうです。

事けんが発生した場合は、すぐにげん場へかけつけ、そうさ活動やひ害を受けた人の救助活動を行ってくれます。



ちゅうざい所



交通事故や事故があった時にかける、110番のしくみを教えてもらいました。

110番のしくみ

- ① 110番は、事故や事故にあったり、それを見た場合にいち早くけい察に連らくするための電話です。
- ② 高知県のどこからかいても、高知市にあるけい察本部通信指令室につながります。
- ③ そこから、パトカーやけい察官に無線で知らせ、げん場に急行させるよう指じを出します。
- ④ パトカーやけい察官は急いでげん場に行き、活動します。

●交通事故をふせぐ

たかしくんたちは、交通安全教室でお世話になった交通課の係の人にも説明を聞きました。

交通課の係の人の説明

交通課では、交通反を起こさないために、取りしめりや交通安全教育を行っています。交通安全教室では、お年より、小学校、中学校、高校、一ぱんと分かれて、それぞれ交通安全の知しきとマナーについて教えています。

また、道路標しきや信号機をつけたり、事この多い場所には、飛び出し注意や事故多発のかん板などを置いたりしています。そのほかに運転めんぎよの書きかえや運転めんぎよのこう習を行っています。



110番のしくみ



飛び出し注意のかん板



道路標しき・信号機



わたしたちが交通事故にあわないように、地いきのみんなが気をつけてくれているんだね。

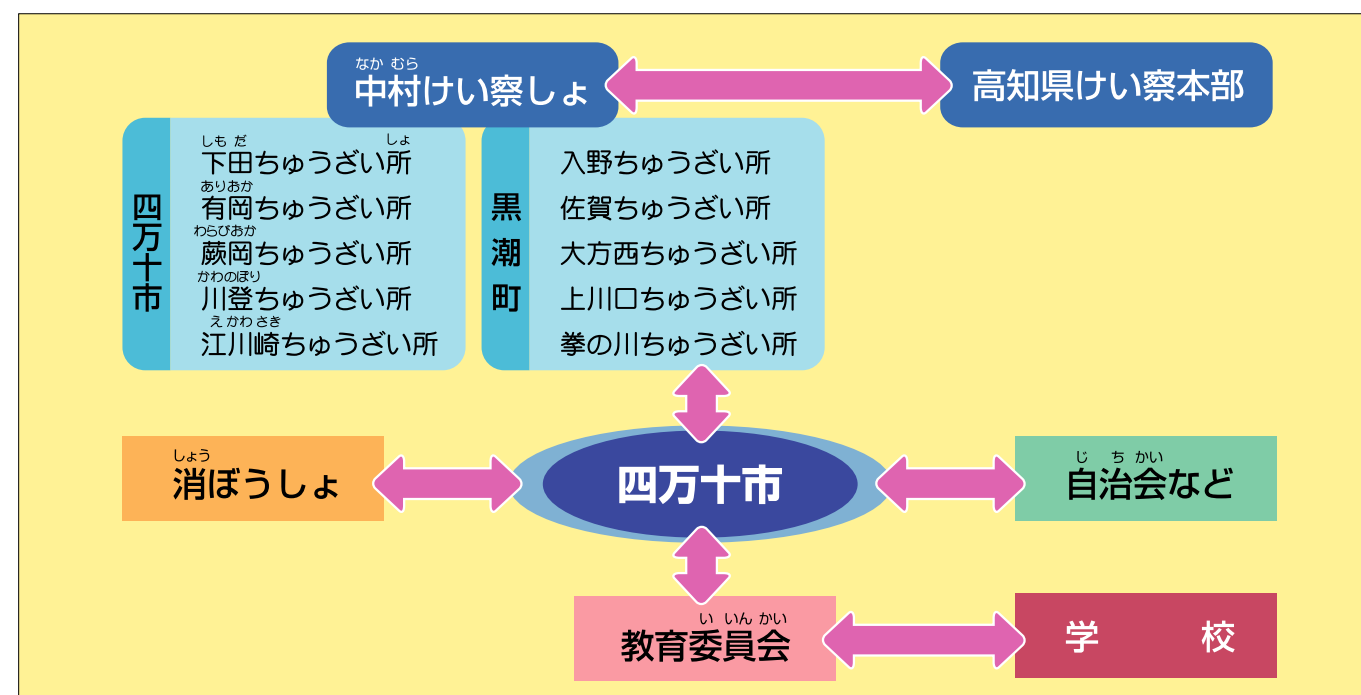
たかしくんたちは、交通安全のための地いきの取り組みについて話を聞きました。

街頭指どうのようす



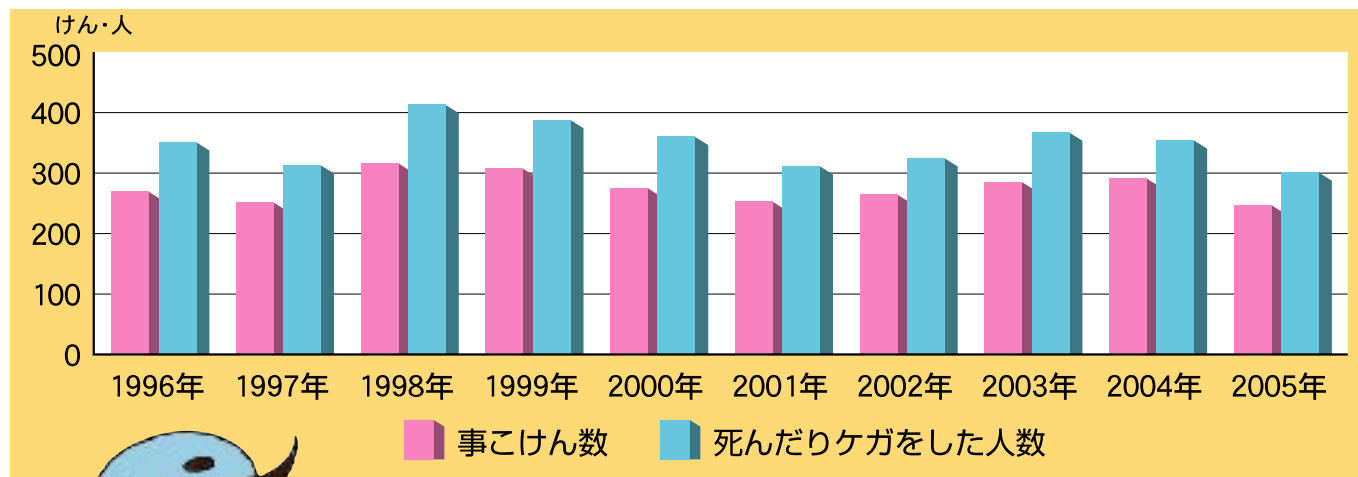
事故をふせぐため、交通安全協会の人やPTAの人といっしょに、朝の街頭指どうを定期的に行っているそうです。また春と秋の交通安全週間には、市役所につとめている人や学校の先生、会社の人たちも加わって街頭指どうを行ったり、交通安全をよびかけるパンフレットを運転している人に配ることもあるそうです。

交通安全運動を進めるためのむすびつき



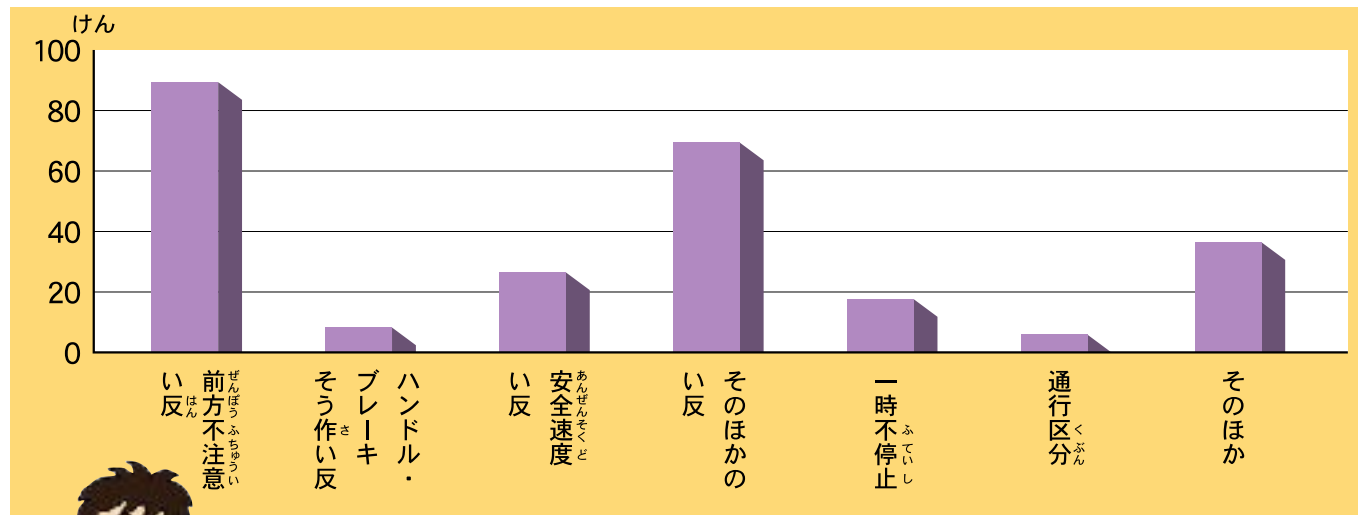
たかしくんたちは、事この数や原いんについてし
料をもらい、説明してもらいました。

交通事故のけん数と死んだりケガをした人の数（中村けい察しよ）



中村けい察しよだけでも、毎年、こんなにたくさんの事故があっ
て、死んだりケガをしている人がたくさんいるんだね。

2005（平成17）年度の交通事故原因（中村けい察しよ）

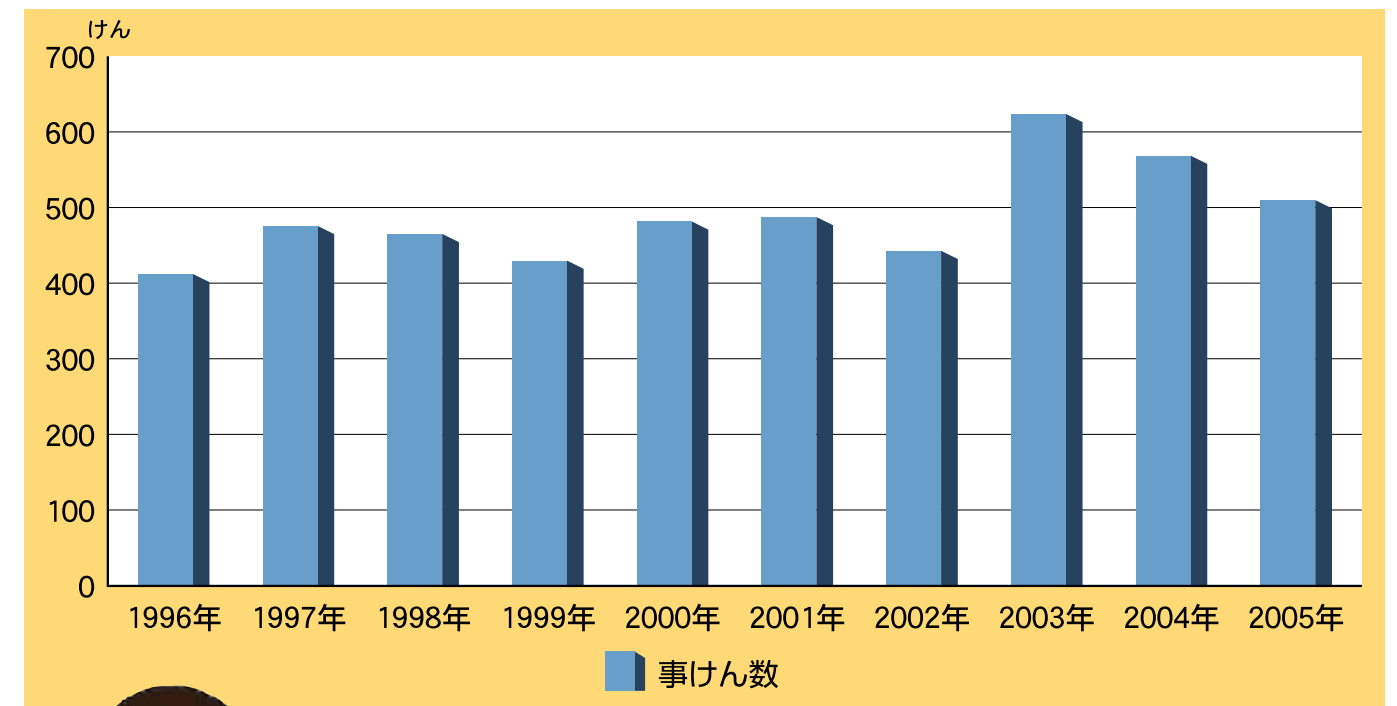


車は前方不注意が多いから、わたしたちはきちんと交通ルールを
守って、車から見えやすいように気をつけないといけないね。

たかしくんたちは、けいじ・生活安全課の方にも話を聞きました。

中村けい察しよでは、2005年に504けんのはんざいが起こり、そのうちとうなんが339けんをしめているそうです。

10年間の中村けい察しよでの事けん数



けいじ・生活安全課の係の人の話

とうなん事けんが多いことは中村けい察しよだけでなく、全国的に多いけい向です。とうなんが多いのは人が多く集まる場所です。

とうなんの中でも、自転車めすんだり、車の中のものめすんだり、万引きしたりするはんざいがいちばん多くなっています。

殺人や強とうなど大きな事けんを起こす人は、このようなはんざいをしたことがある人が多いといわれています。

万引きはとてもこまっただはんざいなんだね。なくしていくようにしないといけないね。



わたしたちの学校
にも来てくれたよ。
楽しく勉強したよ。

中村けい察^{さつ}しよでは、けい察^{さつ}の人が学校に行って、
小学校2年生、5年生、中学校1年生といっしょに、
ぼうはん教室^{がくしゅう}の学習をしています。

そのほかにもひ行ぼう止^{やくぶつ}、薬物らん用ぼう止^お教室など
を行って、小・中学生のうちにはんざい^おを起こさないた
めの知しきや心^{そだ}を育てるように教えているそうです。



ひ行ぼう止教室のようす

また、万引きをふせぐためにぼうはんポスターを作
ってよびかけています

町できけんを感じた時など、すぐ助けを求められる
ように「こどもを守る110番の家^{まも}」があります。高
知県^{ちけん}では約3700か所、四万十市^{やく}では約371か所
(2005年11月)あるそうです。



「子どもを守る110番の家」



このステッカーは近くの
お店で見たことがあるよ。

いちごようかんの 作り方



① 練^ねる



② イチゴとあんをまぜる



③ はこに入れる



④ きれいに包^{つつ}む



りょうしん いち
良心市



(6) 地いき^{とくしょく}の特色を生かした仕事^{しごと}

西土佐地区^{にしとさちく}の人たちは、四万十川^{しまんとがわ}に観光^{かんこう}に来た人た
ちがおみやげ^もに持って帰れるものはないかと考えまし
た。そこで西土佐地区で作っているイチゴをようかん
にしてみましたどうかと思いつきました。

けれどもいざ商品^{しょうひん}として売るには、味・色・したざ
わりなどの工夫^{くふう}が必要^{ひつよう}でした。いろいろな種類^{しゅるい}のさど
うを試^{ため}したり、イチゴとあんのまぜ方を工夫したりし
ました。

そしていちばん大切^{たいせつ}にし
たことは、体に安全^{あんぜん}なよう
かんを作りたいということ
でした。4年かかって、自
然^{ぜん}の材料^{ざいりょう}だけを使^{つか}った今の
『いちごようかん』ができ
あがりました。



いちごようかん



いな木



入れ物

この入れ物は紙でできています。ビニールのようにあとしまつにこまりません。持ちやすい形で、見た目も美しくできています。

また西土佐地区は、水がきれいで、昼と夜の気温の差が大きいので、おいしいお米がとれます。このお米を、西土佐のおいしいお米『山間米』という名前で、都会の人たちに安心して食べ

てもらおうと考えました。

そのために、農薬を4回以下にしたり、いな木を組んで天日ぼしにするなど、いろいろな努力をしました。また、入れ物も工夫して、多くの人に喜ばれています。

そして、このお米と四万十川清流でもっとも美しいとされる黒尊川の水を使った『山間米』というお酒もつくられて売り出すことになりました。

このように、地いきの人たちは自分たちの暮らしの中から知えを出し合って、新しい仕事に取り組んでいます。



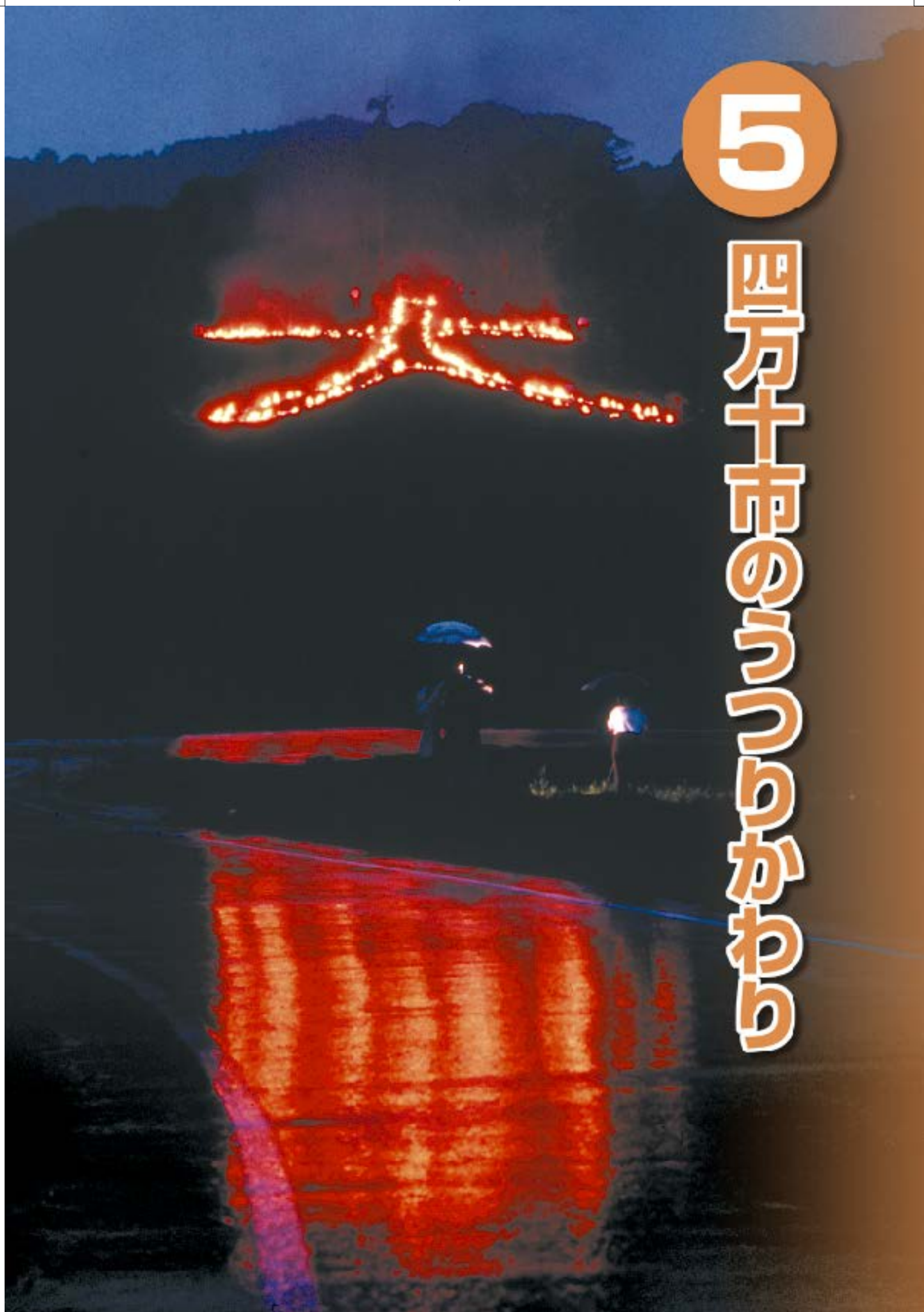
山間米とお酒



5章 扉

5

四万十市のうつりかわり





じょうろうぐも大会



八幡様のお祭り

しまんとし
四万十市は、2005（平成17）年4月10日
に、なかむらしにしとさむら
に、中村市と西土佐村がいっしょになってできまし
た。

市内にはむかし たてもの はし
市内には昔の建物や、古い道や橋が今もたくさん
のこ
残っています。

そのほか、それぞれの土地には古くからつた
まつぎょうじ
いるお祭りや楽しい行事も残っています。

自分たちのまわりで、昔を伝えるものをたずねたり、
絵やしん
や写真などでさがして、四万十市のうつりか
わりのがくしゅう
学習をすすめましょう。



いちじょうじん じゃ
一條神社

け
一條家の先ぞをおまつりしたことに始まる

花取りおどり

へい せ でん せつ のこ にし と さむじ の かわ
平家伝説の残る西土佐藤ノ川の秋祭り





ずいぶん古い
とうだね。いつ
ごろつくられた
んだろう。

(1) 百年くらい前までの昔さがし

めぐみさんたちの昔さがしで見つけたものの中には、大昔のものや、近い昔のものなどがたくさんありました。

この中から、めぐみさんたちは、およそ百年くらい



前までの学校
とくらしのう
つりかわりに
ついて、まと
めることにし
ました。

いわ た さん まん ごく
岩 田 の 三 万 石

昔をくぎってみよう

	110	100年前	90	80	70	60	50年前	40	30	20	10	今
武士のころ	昔				近 い 昔							
	めい じ 明治のころ		大正のころ		しやう わ 昭和のころ						平 成	
	1912		1926		1989							

① 学校のうつりかわり

わたしたちの学校はいつごろできたのでしょうか。
ひがしやま
東山小学校のめぐみさんたちは、自分の学校のうつり
かわりについて調べることにしました。



今の東山小学校

東山小学校のうつりかわりを調べる

調べること	調べ方
● 今の校しやはいつ建てられたのか。 ● その前の校しやはどうだろうか。 ● 昔の学校のようす。 ● 昔の遊びや勉強のようす。	● 家の人や地いきの人に聞く。 ● 学校のあとをたずねる。 ● 図書館で調べる。 ● 記念ひなどで見つける。 ● はんで調べる。

〔調べてわかったこと〕

東山小学校は、1875（明治8）年にできた秋田
小学校、やすなみ
安並小学校、こつ か
古津賀小学校の三つの学校が、
1936（昭和11）年に一つの学校にまとまってで
きたことがわかりました。



昔の東山小学校

めいじ 【明治のころ】

明治のはじめの学校は、小学校四年生までで、今の
ように六年生までの学校に国が決めたのは、1908
(明治41)年だということもわかりました。

明治のころの子どもたちは、今とちがって、家の手
助けや、「ほうこう」といってよその家に働きに出さ
れて学校に行けない人もたくさんいたということもわ
かりました。



おじいさんや
おばあさんが子
どものころの学
校のようすを知
りたいな。



学校ができた頃

しょうわ 【昭和のはじめごろ】

めぐみさんのおじいさんが生まれたころ、東山小学
校になったそうです。

このころ、日本は、となりの中国
と戦争を始めました。それからはず
しい戦争が続いて、食料品や衣類が
なくなってきました。

学校で毎日使う教科書やノートや
えんぴつなども店にはなくなってし
まい、思うように勉強もできなくな
りました。



昔の教科書

【昭和の中ごろから】

1954(昭和29)年には、中
村町の近くの11の村や町がいっしょ
になって、中村市ができました。

そして学校も、中村市立東山小学校に名前がかわり
ました。そのころは、中学校もあって、同じ校しゃで
勉強をしていました。

そのあと中学校は、中村中学校といっしょになりま
した。

そのころから、町の人口もふえてきました。東山小
学校でも子どもがふえてきたので、今のところに学校
をうつして新しい学校ができました。

2005(平成17)年には、中村市と西土佐村が
いっしょになって、今の四万十市ができました。学校
も、四万十市立東山小学校と名前がかわりました。

このように、学校にもうつりかわりがあります。自
分の学校のうつりかわりを調べてみましょう。

どんなものを
食べていたのか
しら。





【自分たちの学校の年表を作ろう】 ねんぴょう

めぐみさんたちは、今まで調べた学校のうつりかわりを、一目でわかるような年表を作ることになりました。

みなさんも、自分の学校の年表をつくってみましょう。

	学校のように	子どものように
明治のころ めいじのころ	 学校のように	
昭和のはじめころ しょうわのはじめころ		
昭和のころ しょうわのころ		
平成になって へいせいになって		



② 暮らしのうつりかわり

学校ができたのは明治の始めです。それからおよそ130年くらいのあいだに世の中もずいぶんかわっています。

めぐみさんたちは、暮らしのようすを調べるために、家の人たちが使っていた昔の道具を集めることにしました。四万十市の人々の暮らし方は、どのようにかわってきたのか年表を作ってくらしのうつりかわりを調べてみましょう。

暮らしのうつりかわりの年表

調べる年代	調べ方
● 130年前くらいの町や村のようす。 ● 馬や船が活やくしたころ。 ● 四万十川に鉄橋ができたころ。 ● 戦争のころ。 ● 南海大地しんのころ。 ● 鉄道がついた。 ● 四万十市のたん生。	● 家や地いきの人にたずねる。 ● 図書館などで調べる。 ● 市役所などで聞く。 ● 昔を伝えるものを見つける。 ● 写真や絵や地図で調べる。



【^{ねんぴょう}くらしのうつりかわりの年表を作ろう】

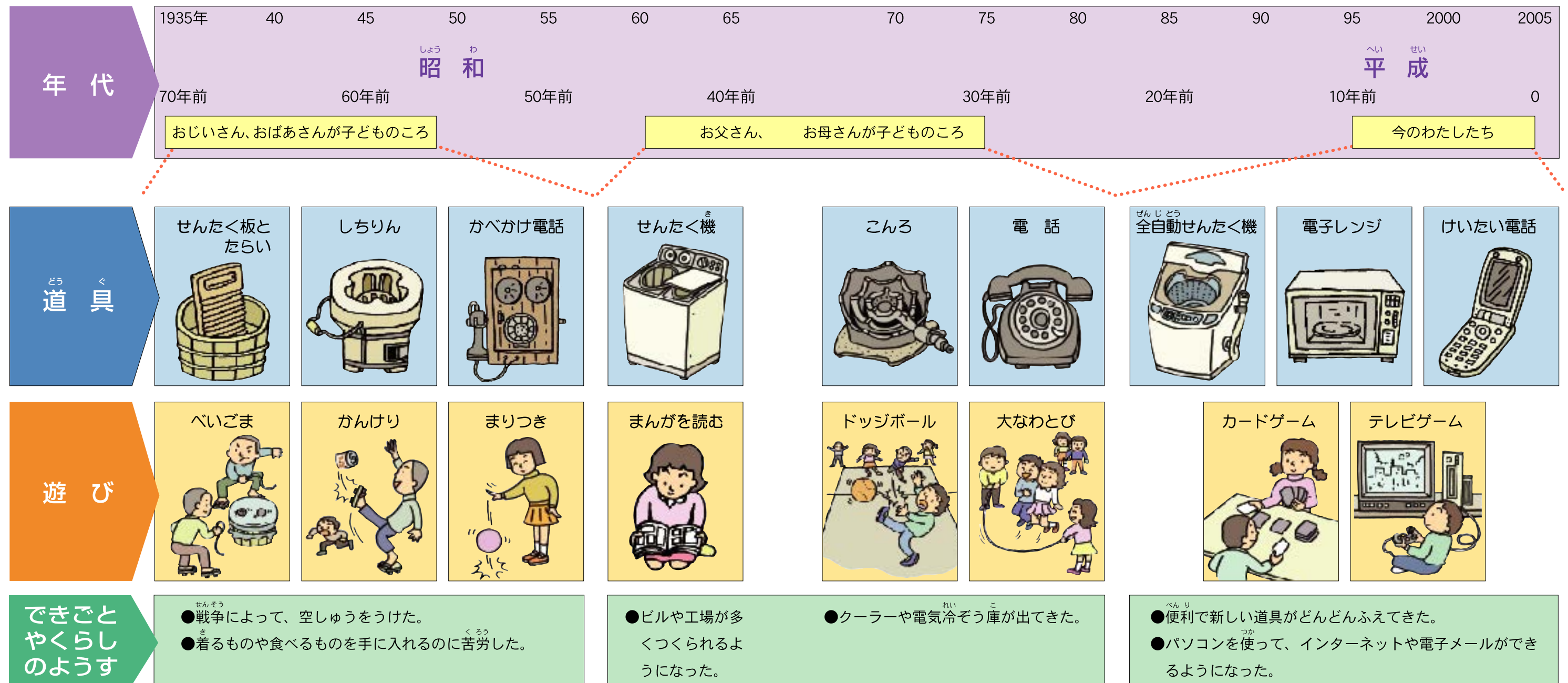
めぐみさんたちは、グループに分かれて、^{しら}調べることを絵や文を使っ^{つか}て、年表に表すことにしました。

みなさんも、調べたことを年表にまとめてみましょう。

※年表づくりの約束^{やくそく}

- ①年表の上に平成などの年号を入れる。
(明治、大正、昭和、平成)
- ②「今から」何年前を書く。
- ③古い順に道具や遊びを絵にかいたり写真をはったりする。
(じゅん どうぐ あそ しゃしん)
- ④できごとや、くらしのようすを書く。

これからわたしたちのくらしは、
どうなっていくだろうね。





ていぼうはいつ
ごろつくられたの
かしら。



西土佐地いきは
水につからなかつ
たのかな。



どんな祭りやおど
りがあるのかな。



(2) わたしたちの四万十市

わたしたちの住んでいる四万十市には、四万十川が流れています。

下流では川の兩岸にていぼうもでき、今では水につかる所は少なくなりました。

昔は、毎年水につかる所もあって、川ぞいの農家では安心して作物も作れませんでした。

市街地の商店街もたびたび水につかっていました。そのために店によっては、ひなんのためのふねを家にじゅんびしていたところもありました。

このように、こう水に苦しめられながらも秋にはお祭りやいろいろな行事を行って、しゅうかくを楽しみました。なかでも不破の八幡さんや一條さんのお祭りは四万十市の人だけでなく、付近の町や村の人々が集まる楽しい行事で、今もずっと続いています。

西土佐地いきにも昔から伝わる祭りやおどりなどが、あちこちに残っています。

市民祭はどんな
お祭りなのかな。



宇和島市にも鹿
おどりがあるけれ
ど、関係あるのか
しら。



中村地いきにも
刀を使った太刀お
どりがあるよ。



四万十市民祭のちょうちん台



西ケ方の五鹿おどり



半家の花取りおどり

馬や船が活やくしたところ

高知県の西にある四万十市は、昔からたいへん不便なところ所でした。

西土佐地いきから中村地いきまで行くのに、昔はほとんど歩いていました。そのころの町や村を結ぶ道は山道が多く、せまい坂道ばかりでした。そのため重い荷物は、馬につけて運んだり、四万十川を使ってふねで人や物を中村や下田の港まで運んだりしていました。

四万十川や後川、中筋川には今のような橋はありませんでした。そのためわたし船を使って人や物を運びました。

このころ西土佐地いきでは、毎日使う品物はとなりの愛媛県から入ってくることが多く、西土佐地いきから吉野生につながる道は大切でした。

愛媛県に通じる道には黒尊から宇和島市や津島町、大宮から松丸へ行く道や権谷を

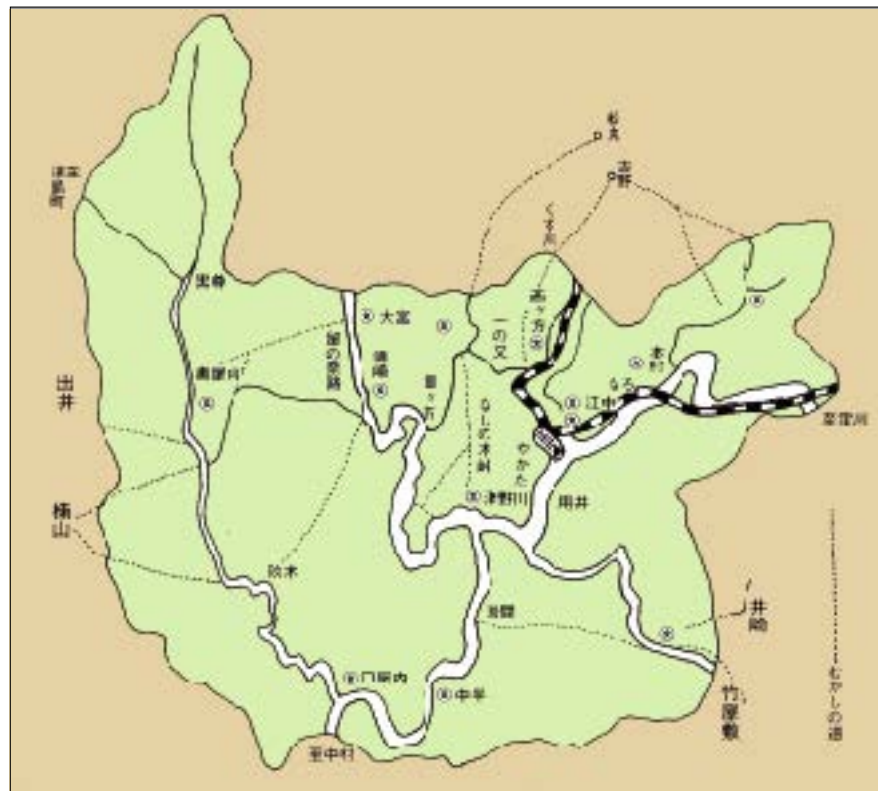
通って吉野生へ行く道、中家地から松丸へ行く道がありました。

愛媛県からは食料品や衣類、ひ料などを買い、西土佐地いきからは木炭や松えん、米などを売っていました。

これらの品物をせいっぱいにつけた「だ馬」が、両県の間をおうふくしていました。



だ馬



いかだ



荷車



下田大阪間の船

四万十川では、長さ13m、はば2mもある「舟母」という大きなふねで一度に4tもある荷物を積んで西土佐地いきの各地から下田の港までの間をおうふくしていました。ふねの数は70そうぐらいあったそうです。

また、木材を運ぶときは何百本も木をしばりあわせて、「いかだ」を組んで運びました。



舟母

昔は、下田の港はたいへん栄えていました。高知や大阪方面に木材や炭を積みだし、大阪などからは日用品、おり物などを運ぶ大切な港でした。

その後、道路が良くなると、「人力車」や「荷車」なども使われ始めました。

また、1901(明治34)年に、四万十市に初めて「自転車」が伝わり、そのころの人たちをおどろかせました。



四万十川の鉄橋

家や田畑が水につかってたいへんだったろうなあ。



しまんとかわ てっきょう 四万十川に鉄橋ができたころ

なかむら 中村地いきには川にはさまれた町があります。毎年のたいふうや大雨のため、こう水となり家や田畑がつかり、人々は苦しい生活を続けてきました。

にしとさ 西土佐地いきも台風がくれば、大水が出て、数日間も四万十川をわたることができませんでした。

そのため、人々は家や田畑を守るじょうぶなていぼうと橋をつくることを願っていました。

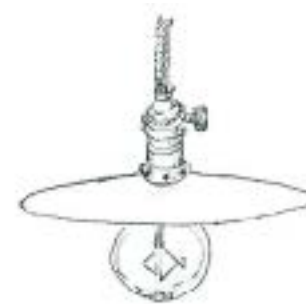
1926（昭和元）年に人々の強い願いがかなって、四万十川に鉄橋がつけられました。



いぜんの津大橋



ランプ



電気



ラジオ

また、1934（昭和9）年に西土佐地いきにも津大橋（つり橋）ができました。そのほかにも次々と橋がつくられ、道路も広められて交通も便利になりました。



ていぼう工事

やがて、市街地から下田、江川崎の間にバスが通いはじめました。その後、市街地を中心にバスの道すじもだんだん多くなってきました。そのころから、ていぼうをつくる工事也开始られました。ていぼうができるにしたがって、水害の心配も少なくなってきました。

100年ほど前までは、電灯もありませんでした。夜は、なたね油やたいまつで仕事をしていましたが、後にランプを使うようになりました。

四万十市に初めて電灯がついたのは、約90年前にかもがわはつでんしょ鴨川に発電所ができたときからです。そして、大正から昭和にかけて電話やラジオが使われ始めました。

せんそう 戦争のころ

昭和になって一番大きいできごとは、太平洋戦争です。日本は、中国やアメリカなどの多くの国と戦争を始めました。そのころは、大人の男の人は戦場に行き、家の仕事は女の人やお年よりでしました。子どもたちも家の手伝いをしながら学校に行きました。



女の人の服そう



ぼう空ずきん



もんぺ



ぼう空ごう

戦争でどれだけたくさんの方がなくなったのかな。



小学校は国民学校となって、戦争に協力するための勉強が多くなりました。

おかしやおもちゃなどは店になくなり、着る物や食べ物などの生活にひつような品物は「配給制」（家族の人数に合わせて、買う品物の分量が決められていた）になりました。そのころは、ごはんもじゅうぶんに食べることができませんでした。学校におべんとうを持っていけない子どももいました。



おばあさんの子どものころの話

食べるものもそで、いもめしをよく食べました。いもめしと言っても、ほとんどがいもで白いご飯はさがすほどでした。一度でいいから白いご飯をおなかいっぱい食べたいと思いました。

ぬのもめったに手に入らず、売っている服もあまりなかったので、古い着物をほどこいて下着も家の人にぬってもらいました。

また、はき物はほとんどわらじでしたが、たまにゴムぐつをはいている人は、友だちにうらやましがられていました。

戦争がはげしくなると、中村地いきにもばくだんが落とされ、そのためになくなった人やけが人が増えました。

そのころは、空しゅうがあるたびにぼう空ごうや山ににげこみ、仕事や勉強はほとんどできませんでした。

中村地いきにも何千人もの兵隊が集まり、戦うじゅんぴをしました。

1945（昭和20）年8月に広島と長崎に原子ばくだんが落とされ、日本はこうふくしました。この戦争でたくさんの方が戦死しました。

戦争が終わって、平和な世の中になりましたが、食べ物や着る物などが不足して、しばらく苦しい生活が続きました。



地しんで落ちた鉄橋

戦争のころや南海大地しんのことを調べてみよう。



西土佐地いきでは被害がなかったのかな。



南海大地しん

戦争が終わった次の年、1946（昭和21）年の冬に南海大地しんがありました。

中村地いきでは3000戸の家がたおれました。この地しんのため、約300人の人がなくなり、800人くらいのけが人が増えました。

中村地いきの四万十川の鉄橋も落ちました。道路もあちらこちらで地われやがけくずれがおきて、通れなくなりました。また、電気や水道などもいたみ、不便な暮らしがしばらく続きました。



地しんによる地われ



(3) 鉄道がついた

幡多地方では、1953（昭和28）年に宇和島市から江川崎まで鉄道がつき、愛媛県へ行くのに便利になりました。1974（昭和49）年に江川崎から窪川町まで鉄道のびると高知市の方へ行きやすくなりました。

中村駅からの乗客（一日平きん）



また、1963（昭和38）年に土佐佐賀町まで鉄道がつき、1970（昭和45）年に中村市まで、さらに1997（平成9）年に宿毛市まで鉄道のびました。鉄道を利用して、幡多地方の美しい自然や四万十川の観光におとずれる人もいます。

宿毛市まで鉄道のびたことで、中学生や高校生が通学するのにとても便利になりました。



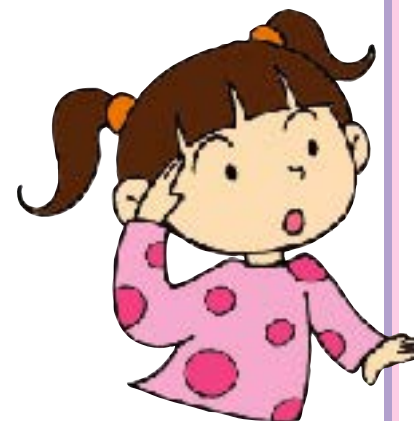
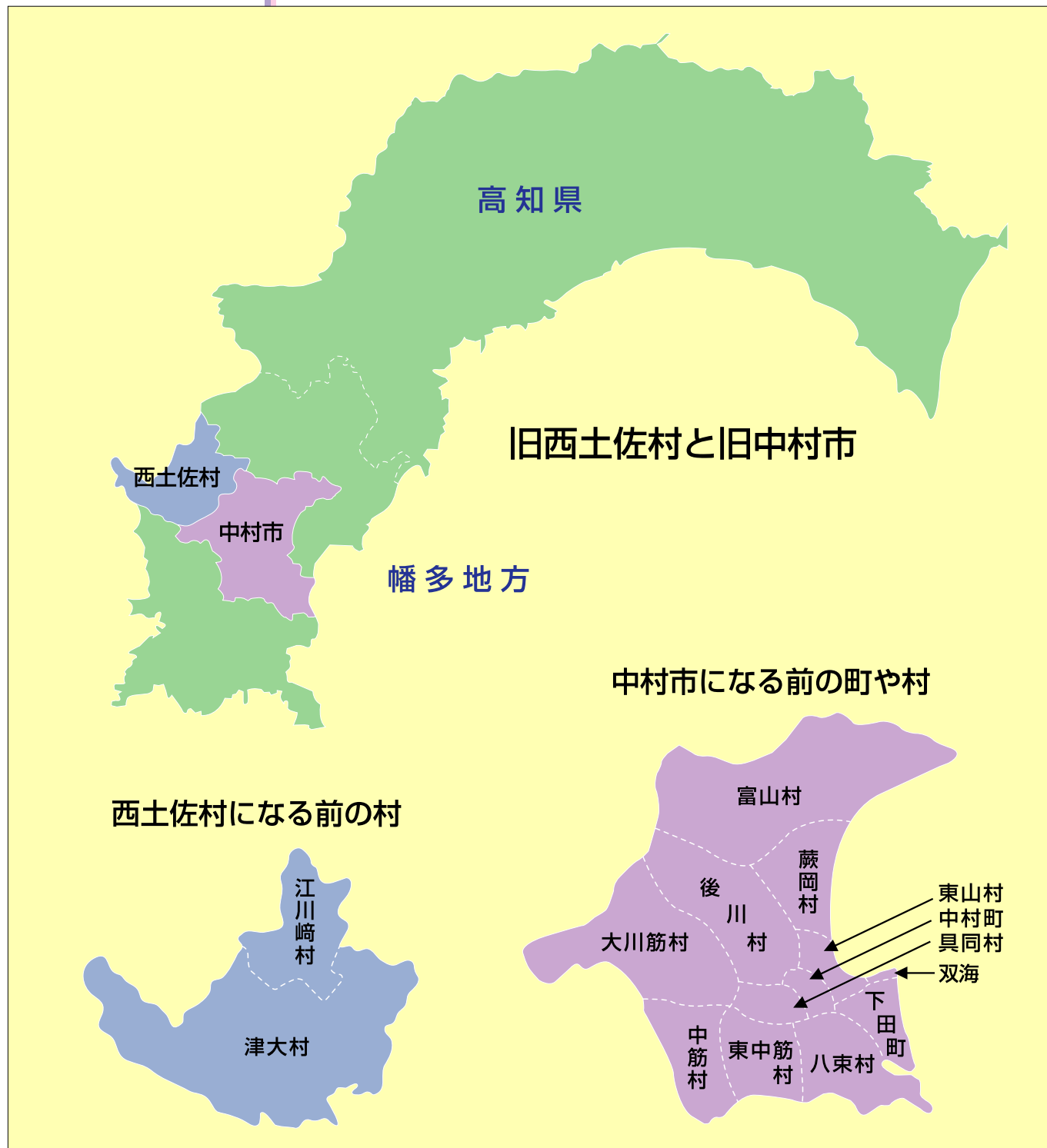
中村駅



宿毛駅

（４）四万十市ができる

四万十市ができるまでは、下の地図のように、高知^{こうち}
 県^{けん}西南^{せいなん}部の^ぶ「幡^は多^た地方^{ちゆうおう}」とよばれるほぼ中央^{なかむらし}に中村市^{なかつむらし}
 と西土佐村^{にしとさむら}がありました。



中村市は、1954（昭和29）年に中村、下田
ひがしやま や つか ぐ どう ひがしなか すじ
 の二つの町と、東山、八束、具同、東中筋、中筋、
おお かわ すじ うしろがわ わらびおか どみ やま
 大川筋、後川、蕨岡、富山の九つの村がいっしょに
 なってできた市で、その後、1957（昭和32）
おお がたちよう ふた み い や ち く
 年には大方町の双海（伊屋）地区も中村市に入りました。

また、西土佐村は1958（昭和33）年に津大^{つだい}と江川崎^{えかわさき}の二つの村がいっしょになってできた村でした。



中村市と西土佐村の合併

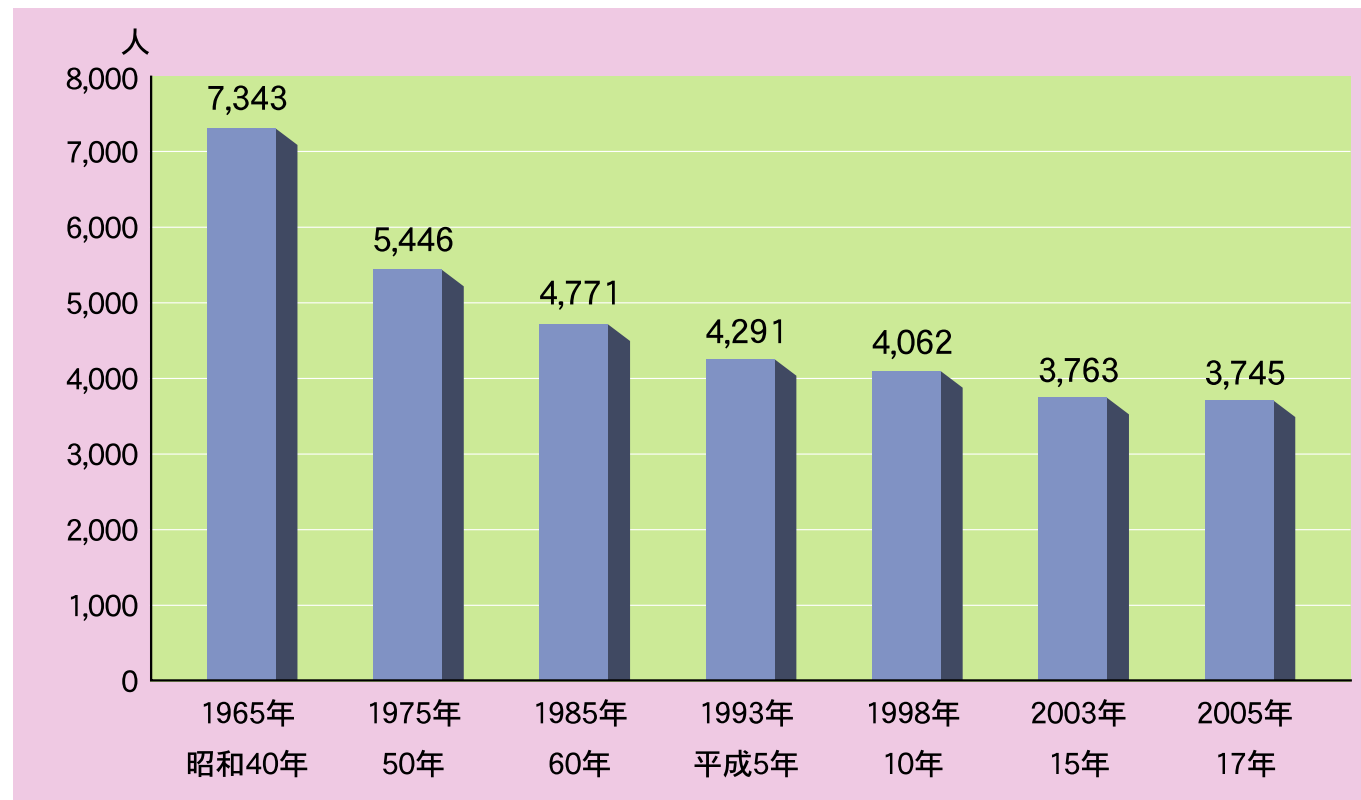
そして、2005（平成^{へいせい}17）年4月10日、中村市と西土佐村がいっしょになり四万十市ができました。

人口は2006（平成18）年には、3万7783人になりました。四万十市には国の役所や県の事務所などのほかに病院や高等学校もあって、幡多地方の中心となっています。

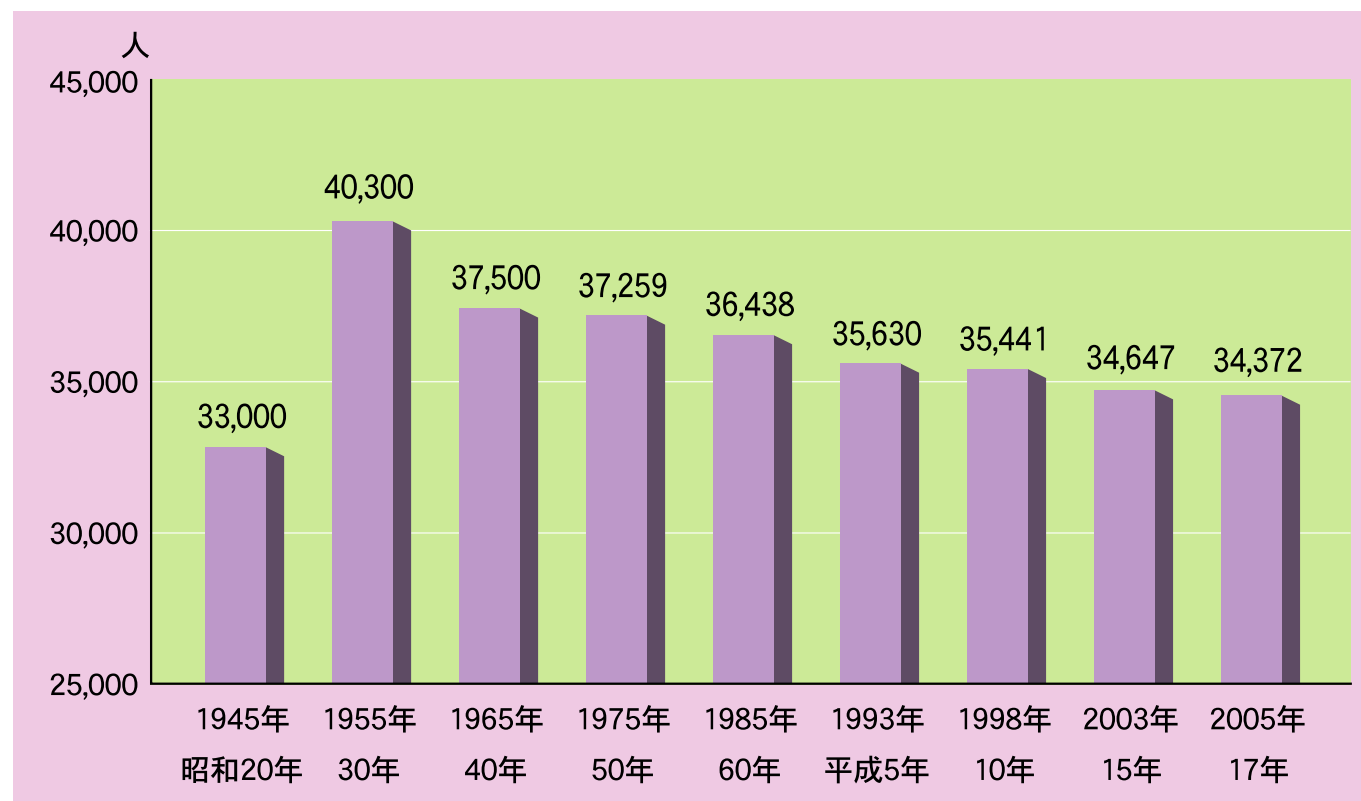
また、全国的にも知られる美しい四万十川を守り、
四万十川観光にも力をそそいでいます。



きゅうにし と さ むら
旧西土佐村の人口のうつりかわり



なか むら し
旧中村市の人口のうつりかわり



(5) これからの四万十市

これまで四万十市のうつりかわりについて学習してきました。

今まで知らなかったことや分からなかったことを知ることができました。そして、昔からの人々の努力によって今のわたしたちの生活がつくられてきたことも分かりました。わたしたちも、これからみんなで協力して、住みよい四万十市をつくっていかねばなりません。

これからの四万十市を育てんさせるためにどんなことが大切か、みんなで話し合いましょう。



美しい四万十川

しまんとし
四万十市のうつりかわり（年表）

なかむらし
1 合べい前の中村市

いつ	ねん	だい	学 校 の で き ご と	お も な で き ご と		
百 三 十 年 前	明	1	1868	・江戸時代から明治となる ・土佐藩が高知県となる ・中村にゆう便局ができる		
		5	1872			
		6	1873			
		8	1875			
		治	9		1876	・中村にけい祭しよができる ・下田にゆう便局ができる (11年) ・高知と下田の間に汽船がつく ・大こう水で、ひ害をうける
			10		1877	
	14		1881			
	15		1882			
		17	1884			
		19	1886			

いつ	年 代			学 校 の で き ご と	お も な で き ご と
百 二 十 年 前	明	20	1887	・竹島小学校伊沢分教場がなくなる ・竹島小学校と鍋島小学校がとう合する ・磯ノ川小学校と横瀬小学校が、有岡小学校へとう合する ・入田小学校が具同小学校へとう合する ・鵜ノ江小学校が勝間へい転し、勝間小学校となる	・町や村をを合べいして、11の町や村となる ・大こう水のためひ害をうける ・中村と宿毛の間の道が県道となる
				・片住小学校が三東小学校となる	
				・上ノ土居小学校が有岡小学校へとう合する	
				・三又教室を三東小学校へとう合する	
				・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
				・三東小学校が片魚小学校となる	
				・具同小学校を新ちくする	
				・実崎小学校の校しゃが台風のためたおれる	
				・蕨岡小学校に伊才原分校ができる	
	治	21	1888	・竹島小学校を新ちくする	・日清戦争がおこる ・道路の改良工事が始まる（道はば1.8m） ・台風で大きなひ害をうける ・山中線(中村－蕨岡)の郡道工事が始まる ・中村が中村町となる ・大こう水がおこる
				・不破小学校を中村小学校にとう合する	
				・竹島小学校の校しゃが台風のためたおれる	
				・下古屋小学校を竹屋敷小学校へとう合する	
				・竹島小学校を新ちくする	
				・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
				・三東小学校が片魚小学校となる	
				・具同小学校を新ちくする	
		22	1889	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		23	1890	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		25	1892	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		27	1894	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		29	1896	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		30	1897	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		31	1898	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		32	1899	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	
		34	1901	・大用小学校の校しゃが山くずれのためうまる	
				・中村小学校から不破小学校がわかれる	

いつ	ねん 年 代		学 校 の で き ご と		お も な で き ご と	
百 年 前	明	35	1902	・ 住次郎小学校とおおにしのかわ大用小学校の分校となる	・ 後川橋（中村一安並）ができる	・ 日露戦争がおこる
		37	1904		・ 中村町に図書館ができる	・ 久栄岸橋（中村一佐岡）ができる
		39	1906		・ 大こう水で大きなひ害をうける	
		40	1907			
		41	1908	・ ぎむ教育が6年となる	・ 郡道第二期の工事が始まる（手洗川、竹屋敷線など）	
	治			・ 小学校へ高等科（2年）をおくようになる		
				・ 大用小学校、川登小学校新ちく		
		43	1910	・ 利岡小学校にこう堂ができる	・ 中村でゴムわの人力車が使われたす	
		44	1911	・ 奥古尾分校、住次郎分校、大西ノ川分校がはい止になる		
	九 十 年 前	大	1	1912		・ 四万十川がはんらんして中村町が大きなひ害をうける
2			1913		・ 鴨川に発電所ができて電灯がつきだす	・ 大用にしせつの発電所ができて電灯がつきだす
3			1914	・ 中村小学校が新町へうつる	・ 第一次世界大戦がおこる	・ 四万十川（渡川）の中村一具同間に岡田式わたし船がつく
正		4	1915	・ 大用小学校が富山第一小学校、竹屋敷小学校が富山第二小学校、大屋敷小学校が富山第三小学校	・ 高知県の町や村の役場に電話がつく	・ 四万十川のわたし船の事こで8名が死ぼうする
		5	1916	・ とよぶようになる		
				・ 楠島小学校が火事で焼ける		
		7	1918		・ 大こう水でひ害をうける	

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と	
八 十 年 前	大 正	8	1919	・ 下田小学校が火事で焼ける	・ 中村一下田間に電話がつく ・ 中村に水道会社ができる ・ 下田で大火事がおこる ・ 八束にゆう便局ができる
		9	1920	・ 下田小学校落成	・ 台風で 188 名が死ぼう ・ 蕨岡にゆう便局ができる ・ 中村一下田、具同一片島の 間をバス通りだす ※（中村市の人口 29,674 人）
		11	1922	・ 片魚分教場が富山第四小学校となる	・ 東山村に図書館ができる ・ 中村一江川崎（西土佐村） にプロペラ船がつく
		12	1923		・ 蕨岡村に図書館ができる
		14	1925		・ ラジオ放送が始まる ※（中村市の人口 30,420 人）
		15	1926	・ 悪瀬々分校を川登小学校にとう合	・ 四万十川に鉄橋が完成
	昭 和	2	1927		・ 下田村が下田町となる
		3	1928		・ 中村一江川崎間にバスが通 りだす ・ 後川にゆう便局ができる
		4	1929		・ 渡川（四万十川）のていば う工事が始まる ※（中村市の人口 30,590 人）
		9	1934		・ 室戸台風のため大こう水と なり中村町など水につかり 大きなひ害をうける
		10	1935	・ 勝間小学校が大こう水のためつかる	・ 東中筋にゆう便局ができる ・ 大こう水で中村の町がつか る（しん水家屋 2,456 戸） ※（中村市の人口 30,549 人）
		11	1936	・ 安並小学校と古津賀小学校がとう合 して東山小学校となる ・ 川登小学校が大川筋第一小学校とな る	・ 久栄岸橋から鉄橋まで道路 をほそうする
七 十 年 前	12	1937	・ 間崎小学校と実崎小学校、山路小学 校がトウ合して八束小学校となる		

いつ	ねん 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と
六 十 年 前	昭	13	1938	・江 ^え ノ ^の 村 ^{むら} 小学校を楠 ^{くすしま} 島 ^{しま} 小学校へとう合
		14	1939	・利 ^{とし} 岡 ^{おか} 小学校新ちく
		15	1940	
		16	1941	
		20	1945	・小学校を ^{こくみん} 国民学校というようになる
		21	1946	・地しんのため中村国民学校が全 ^お か ^お い ^わ す ^す じ ^だ い ^い ち ^ち 大 ^{かつ} 川 ^ま 筋 ^ま 第一国民学校、勝 ^{かつ} 間 ^ま 国民学校 が半 ^{はん} か ^か い ^い す ^る
		22	1947	・国民学校が小学校となる ・ぎ ^き む ^う 教 ^き 育 ^う が9年となり各 ^{かく} 地 ^ち に新 ^{あら} しく 中 ^{ちゅう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} がで ^き る ・勝 ^{かつ} 間 ^ま 小学校が大 ^お 川 ^か 筋 ^ま 第二小学校とな る
		23	1948	・大 ^お 川 ^か 筋 ^ま 第一小学校新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		24	1949	・中 ^{なか} 村 ^{むら} 小学校新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		25	1950	・八 ^や 束 ^つ 小学校名 ^な 鹿 ^{しか} 分 ^{ぶん} 校 ^{がう} がで ^き る
	和	26	1951	・富 ^{とみ} 山 ^{やま} 第三小学校新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		27	1952	・田 ^た 野 ^の 川 ^{かわ} 小学校新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		28	1953	・具 ^ぐ 同 ^{どう} 小学校新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		29	1954	・中 ^{ちゅう} 村 ^{むら} 市 ^し とな ^り て学 ^{がく} 校 ^{こう} の ^な し ^{ょう} が中 村 ^{むら} 市 ^し 立 ^{りつ} 〇〇小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} とな ^る
		30	1955	・中 ^{なか} 筋 ^{すじ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 、蕨 ^{わらび} 岡 ^{おか} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		31	1956	
		32	1957	
		33	1958	
		34	1959	
		35	1960	
五 十 年 前	昭	36	1961	
		37	1962	
		38	1963	・竹 ^{たけ} 島 ^{しま} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 、下 ^{しも} 田 ^だ 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		39	1964	・中 ^{ちゅう} 村 ^{むら} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} にプ ^ぷ ール ^{ーる} がで ^き る
		40	1965	
		41	1966	
		42	1967	
		43	1968	
		44	1969	
		45	1970	
	和	46	1971	
		47	1972	
		48	1973	
		49	1974	
		50	1975	
		51	1976	
		52	1977	
		53	1978	

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と
五 十 年 前	昭	33	1958	・大 ^{おお} 用 ^{ゆう} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 改 ^{かい} ち ^く 、常 ^{じょう} 六 ^{ろく} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} ぞう ち ^く
		35	1960	・勝 ^{かつ} 間 ^ま 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} ぞうち ^く
		37	1962	
		38	1963	・竹 ^{たけ} 島 ^{しま} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 、下 ^{しも} 田 ^だ 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} 新ちく ^{らく} 落 ^れ 成 ^{せい}
		39	1964	・中 ^{ちゅう} 村 ^{むら} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{こう} にプ ^ぷ ール ^{ーる} がで ^き る
		40	1965	
		41	1966	
		42	1967	
		43	1968	
		44	1969	
	和	45	1970	
		46	1971	
		47	1972	
		48	1973	
		49	1974	
		50	1975	
		51	1976	
		52	1977	

いつ	ねん	だい	学 校 の で き ご と		おもなできごと
四 十 年 前	昭 和	43	1968		・中村食肉センター、市えい火そう場ができる ・鉄橋に歩道がつく ・電話がダイヤルになる ・中村開府 500年の記念行事が行われる ・市立図書館、県立幡多文化センターができる ・下田、大用にほうせい工場ができる ・中村に鉄道が開通する ・森沢橋、江ノ村橋ができる ・常六一打井川線（大正町）竹屋敷一野々川線(十和村)開通 ・鍋島に「のり集荷場」ができる ・佐岡、蕨岡にほうせい工場ができる ・中村―清水―宿毛間国道 32号線となる ※（中村市の人口 33 573人） ・今成ちん下橋ができる ・岩田に木材だん地ができる ・百笑、岩崎にていぼうができる ・具同にほうせい工場ができる ・中島橋、伊才原橋、上内川橋、岩田橋ができる ・古津賀へちり、ごみ焼場ができる ・幡多郷土資料館ができる ・市民スポーツセンターができる ・安並そう合運動公園
		44	1969	・中筋小学校と下田小学校にプールができる	
		45	1970	・大用小学校に体育館ができる	
		46	1971	・名鹿分校が八束小学校へとう合	
		47	1972	・八束小学校と東中筋小学校にプールができる ・川登小学校い転新ちく落成	
		48	1973	・中村小学校に体育館ができる ・竹屋敷小学校い転新ちく落成	

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と	
三 十 年 前	昭	49	1974	・伊才原分校蔵岡小学校へとう合 ・大用小学校にプールができる	・塩塚トンネル開通
		50	1975	・蔵岡小学校にプールができる	・交通児童公園ができる ・幡多地方公せつおろし売 市場が佐岡にできる ・市民病院を建てかえる ・国道56号線にバイパスがつく ・台風5号のため大きなひ害をうける ※（中村市の人口34,437人） ・台風17号のためひ害をうける
		51	1976	・東山小学校い転新ちく落成 ・竹島小学校にプールができる ・八束小学校新ちく落成	・有岡と右山にほうせい工場 ができる ・常六に給水しせつができる ・後川橋に歩道がつく ・佐岡橋、坂折橋をつけかえる ・中村中央公民館が右山にできる ・中村市「福祉のまちづくり宣言」 ※（中村市の人口35,466人） ・中村一大正一徳島線が国道439号線となる
		52	1977		
		53	1978	・具同小学校い転新ちく落成 ・鴨川小学校が利岡小学校へとう合	
		54	1979		
		和	55	1980	・勝間小学校新ちく落成 ・中筋小学校が焼ける
	57		1982	・中村小学校から分かれて、中村南小学校が不 ^ふ 破にできる ・中筋小学校新ちく落成 ・東山小学校と具同小学校に体育館ができる	
	58		1983	・中村南小学校に体育館ができる	
	59		1984	・東山小学校ぞうちく落成	
	60		1985	・八束小学校に体育館ができる	※（中村市の人口36,492人）
	61		1986	・東山小学校にプールができる	

いつ	ねん 年 代		学 校 の で き ご と		お も な で き ご と		
二 〇 年 前	昭 和	62	1987	・ 常六じょうろく小学校改かいちく落成らくせい ・ 利岡としおか小学校改かいちく落成 ・ 竹島たけしま小学校に体育館たいいくかんができる	・ J R四国から窪川くぼかわ・中村間なかつむらが「くろしお鉄道てつどう」となる		
		63	1988	・ 蕨岡わらびおか小学校改かいちく落成 ・ 田野川たのかわ小学校改かいちく落成			
	平 成	1	1989	・ 東中筋ひがしなかすじ小学校改かいちく落成 ・ 川登かわのぼり小学校に体育館たいいくかんができる	・ 1月 昭和天皇しょうわ てんのうがなくなり平成へいせいとなる ・ 4月 10日を「四万十しまんとの日」と定め記念行事きねんぎょうじが行われる ・ 市の花「フジ」市の木「ヤナギ」市の魚「アユ」と決める ・ 市立四万十トンボ館しりつしまんとトンボかんができる ※（中村市の人口 36 073人）		
			2	1990			・ 竹島小学校改かいちく落成
		3	1991	・ 大用おおゆう小学校改かいちく落成 ・ 具同ぐどう小学校にプールプールができる	・ ごみ、ちり焼場やきばが竹島へい転てん（幡多中央環境センターはたちゅうおうかんきやう） ・ 中村一西土佐線 国道 44号にしとさ くにどう 44ごう線となる（37km） ・ 台風 19号で大潮水すい ・ 9月から学校週 5日せいへ向けて第二土曜日だいに にどどが休みとなる ・ 下田オートキャンプ場「とまろっと」ができる		
			4	1992			・ 片魚かたうお小学校改かいちく落成 ・ 田野川小学校水につかる
			5	1993			・ 中村市の新しいきょう土芸のう「一條太鼓いちじょうたいこ」が初登場はつとうじやう ・ 渡川わたりがわが「四万十川しまんとがわ」に名前が変かわる ・ 第 1 回「四万十川ウルトラマラソン」が行われる ・ 中村古津賀ゆう便局こつ か びんきょくができる ・ 国道 321号線の伊豆田トンネルいず た かいつう開通する ※（中村市の人口 35 560人）
		6	1994				
		7	1995				

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と			
十 年 前	平	8	1996	・中央下水道管理センターができる ・中村駅前ゆう便局ができる ・中村市立温水プールができる ・八束中学校改ちく落成	・中央下水道管理センターが できる ・中村駅前ゆう便局ができる ・中村市立温水プールがで きる ・八束、竹島間を結ぶ四万十 大橋ができる ・中村シティーパーキングが できる ・中国安き省はく州市と有 好都市になる ・くろしお鉄道宿毛線 (236km) が開通する ・IAAF後えん IAUワールド チャレンジ第5回「四万十 ウルトラマラソン」が開 かれる		
		9	1997			・東中筋中学校に屋内運動場ができる ・田野川小学校に屋内運動場ができる	※(中村市の人口35 463人) ・中村線開通30周年記念式 典が開さいされる ・中村高校そう立100周年記 念式典が開さいされる ・四万十スタジアムができる ・幸徳秋水生たん130周年記 念公園が開さいされる ・第57回国民体育大会なん式 野球・ボート競ぎりハーサ ル大会が開さいされる ・アロインス製薬株式会社四 万十工場ができる ・四万十川学遊館ができる ・四万十いやしの里ができる ・中村宿毛道路が開通する ・よさこい高知国体が開さい される
		10	1998				
		11	1999				
		12	2000				
	成	13	2001				
		14	2002	・勝間小学校が休校になる ・学校給食が一部開始になる			

1 合^{なかむらし}べい前の中村市

いつ		ねん 年 だい 代		学 校 の で き ご と		お も な で き ご と	
	平	14	2002			は た のうぎょう ・幡多農業高校そう立 60周年 記念式典が開さいされる	
		15	2003	かたうお ・片魚小学校が休校になる		き ねんしきてん ・ 幡多クリーンセンターがで きる	
		16	2004	たけ やしき ・竹屋敷小学校が休校になる		こうみんかんおおかわすじ ・ 公民館大川筋分館落成	
				じょうろく ・常六小学校が休校になる		む きょう ぎ かい ・ 合ぺいに向けて協議会がせ つ立される	
	成	17	2005	やつ か ・八束小学校ぞうちく落成		せい ぶ ・ 西部とう合かんい水道しせ つができる	
なかすじ ・中筋小学校プール改ちく落成				しまんと ・ 四万十とう合かんい水道し せつができる			
						ちやういん ・ 四万十市へ合ぺいの調印が される	
						こう ち けん ち じ ・ 高知県知事に四万十市をせ つ 置する申せいをする	
						たまひめ かいかん ・ 玉姫さくら会館ができる	
2005(平成17) 年4月10日 「四万十市」 がたん生しました。							

2 合^{にしとさむら}べい前の西土佐村

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と
百三十年前	明	1	1868	・ 江 ^え 戸 ^ど 時 ^じ 代 ^{だい} か ^か ら ^ら 明 ^{めい} 治 ^じ と ^と な ^な る
		5	1872	・ 土 ^と 佐 ^さ 藩 ^{はん} が ^が 高 ^{こう} 知 ^ち 県 ^{けん} と ^と な ^な る
		8	1875	・ 川 ^{かわ} 崎 ^{さき} に ^に ゆ ^ゆ う ^う 便 ^{べん} 局 ^{きょく} が ^が で ^で き ^き る
		12	1879	・ 村 ^{むら} 内 ^{ない} に ^に 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 奥 ^{おく} 屋 ^や 内 ^{ない} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} 、奥 ^{おく} 屋 ^や 内 ^{ない} と ^と 玖 ^く 木 ^き に ^に 教 ^{きょう} 育 ^{いく}
				場 ^{じょう} が ^が あ ^あ り ^り 10日 ^{じつ} 交 ^{こう} たい
				・ 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} 、区 ^く い ^い きは ^は 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} と ^と 中 ^{なか} 半 ^{はん}
				・ 藤 ^{ふじ} ノ ^の 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 津 ^つ 野 ^の 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 下 ^{しも} 家 ^{いえ} 地 ^ぢ 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 下 ^{しも} 山 ^{やま} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 江 ^え 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
		14	1881	・ 押 ^お 谷 ^や 、権 ^{ごん} 谷 ^{だに} 、半 ^{はん} 家 ^げ 分 ^{ぶん} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
百二十年前	治	15	1882	・ 玖 ^く 木 ^き に ^に 分 ^{ぶん} 教 ^{きょう} 場 ^ば が ^が で ^で き ^き る
				・ 中 ^{なか} 半 ^{はん} を ^を 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} 分 ^{ぶん} 校 ^{がく} と ^と す ^す る
				・ 橘 ^{たちばな} 、敷 ^{やぶ} ヶ ^が 市 ^{いち} （須 ^す 崎 ^{さき} ふ ^ふ く ^く む ^む ）に ^に 分 ^{ぶん} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 藤 ^{ふじ} ノ ^の 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} 、校 ^{がく} し ^し ゃ ^や 新 ^{しん} ち ^ち く ^く す ^す る
				・ 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と 中 ^{なか} 半 ^{はん} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} に ^に わ ^わ か ^か れ ^れ る
				・ 津 ^つ 野 ^の 川 ^{かわ} 、下 ^{しも} 山 ^{やま} 、権 ^{ごん} 谷 ^{だに} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} 校 ^{がく} し ^し ゃ ^や 新 ^{しん} ち ^ち く ^く す ^す る
				・ 奥 ^{おく} 屋 ^や 内 ^{ない} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} い ^い 転 ^{てん} 新 ^{しん} ち ^ち く ^く す ^す る
				・ 津 ^つ 野 ^の 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} 、津 ^つ 賀 ^が 分 ^{ぶん} 室 ^{しつ} が ^が で ^で き ^き る
				・ 玖 ^く 木 ^き 分 ^{ぶん} 校 ^{がく} 、ぼ ^ぼ う ^う 風 ^{ふう} 雨 ^う で ^で と ^と う ^う か ^か い ^い す ^す る
				・ 津 ^つ 野 ^の 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} に ^に 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} 分 ^{ぶん} 室 ^{しつ} 、下 ^{しも} 家 ^{いえ} 地 ^ぢ 分 ^{ぶん} 室 ^{しつ} が ^が で ^で き ^き る
	20	1887	1887	・ 藤 ^{ふじ} ノ ^の 川 ^{かわ} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
				・ 下 ^{しも} 山 ^{やま} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
				・ 江 ^え 川 ^{かわ} 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が 本 ^{ほん} 村 ^{むら} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
	21	1888	1888	・ 権 ^{ごん} 谷 ^{だに} 、押 ^お 谷 ^や 、中 ^{なか} 組 ^{ぐみ} で ^で 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} が ^が で ^で き ^き る
				・ 奥 ^{おく} 屋 ^や 内 ^{ない} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
				・ 口 ^{くち} 屋 ^や 内 ^{ない} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
				・ 津 ^つ 野 ^の 川 ^{かわ} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る
				・ 敷 ^{やぶ} ヶ ^が 市 ^{いち} 簡 ^{かん} 易 ^い 小 ^{しょう} 学 ^{がく} 校 ^{がく} と ^と な ^な る

いつ	年 代		学 校 の で き ご と	お も な で き ご と	
百 年 前	明 治	21	1888	・ 大宮簡易小学校ができる ・ 下家地簡易小学校となる ・ 半家分校はい止、半家簡易小学校となる ・ 西ヶ方簡易小学校ができる ・ 奥屋内尋常小学校となる ・ 口屋内尋常小学校となる ・ 藤岩尋常小学校藤ノ川分教場となる ・ 津野川尋常小学校となる ・ 藪ヶ市と下家地簡易小学校はい止、 下藪尋常小学校とし2カ所にじゅん 回教育場ができる ・ 大宮尋常小学校となる ・ 下山尋常小学校となる ・ 半家尋常小学校となる ・ 権谷尋常小学校となる ・ 下山尋常小学校西ヶ方分教場となる ・ 津野川尋常小学校藤ノ川分教場・須 崎分教場・下家地分教場となる ・ 奥屋内尋常小学校い転改ちくする ・ 半家尋常小学校校しゃ改ちくする ・ 大宮尋常小学校下家地分教場となる ・ 西ヶ方尋常小学校が開校する ・ 江川本村尋常小学校として校しゃ新 ちく、通学区は半家、本村 ・ 藤ノ川分教場い転する ・ 西ヶ方尋常小学校改ちくする ・ 下山尋常小学校から川崎尋常小学校 へ校名がかわる	・ 学校や田畑が大水で流される

いつ	年 代			学 校 の で き ご と	お も な で き ご と		
八十年前	大正	12	1923	・津野川尋常小学校校しや新ちく	・吉野、川崎、窪川に自動車 が通い始める		
		13	1924	・権谷尋常小学校校しや新ちく			
	昭和	2	1927	・藤ノ川尋常小学校となる	・大宮で養いがさかんになり 始める		
		3	1928		・川崎～中村に自動車を通い 始める		
		4	1929		・藤ノ川に森林鉄道がしかれる		
		6	1931		・村内にトラックが走り出す		
		8	1933		・津大橋がかかる（つり橋）		
		10	1935		・台風の大水でひ害が出る		
		11	1936		・川崎橋がかけられる		
		12	1937		・大宮尋常小学校校しやい転新ちく		
七十年前	昭和	15	1940	・藤ノ川尋常小学校旧校地に校しやい転	・森林組合ができる ・太平洋戦争が始まる		
		16	1941	・国民学校令により尋常小学校が国民 学校となる			
	昭和	18	1943	・西ヶ方尋常小学校校しや改ちく落成	・満州へ分村、約200人 ・戦争が終わる		
		20	1945				
		21	1946				
		昭和	22			1947	・津野川小中学校となる ・奥屋内小学校となる ・口屋内小学校となる ・藤ノ川小学校となる ・下家地小学校となる ・大宮小学校となる ・大宮小学校須崎分校となる ・川崎小学校となる ・本村小学校となる
			23			1948	
			24			1949	
	25		1950				
	六十十年前	昭和	26	1951	・津野川小中学校校しや落成 ・須崎小学校となる	・クリのさいばいが始まる ・口屋内しんりょう所ができる ・大宮しんりょう所ができる ・江川崎まで宇和島から汽車 が走り始める	
27			1952				
28			1953				
29			1954				
30			1955				
32			1957				
32			1957				

2 合併前の西土佐村

いつ	ねん だい 年 代		学 校 の で き ご と		お も な で き ご と	
四十 年前	昭	33	1958		・西土佐村 にしとさむら ができる	
		34	1959		・テレビがはじめて西土佐で 放送 ほうそう される	
		37	1962		・奥屋内しんりょう所 じょ ができる	
		38	1963		・役場 やくば が新しくなる	
		43	1968	・藤ノ川 ふじのかわ 小学校、副食給食開始		
		44	1969	・口屋内 くちやない 小学校へ玖木 くき 小学校をとう合、 学校給食開始		
		45	1970	・権谷 こんだに 小学校校しやぞう改ちく		
		47	1972	・須崎 にしがほう 小学校、西ヶ方 ほう 小学校で副食給食開始	・津大大橋 つだいおおはし ができる（2車線 になる）	
		48	1973	・須崎小学校校しやぞうちく ・大宮 おおみや 小学校、給食開始		
		49	1974	・藤ノ川小学校校しや新ちく	・口屋内大橋ができる	
三十 年前	和	50	1975		・西土佐中学校ができる	
		52	1977		・中学校がとう合して一つになる	
		53	1978	・津野川 つのかわ 小学校校しや新ちく ・藤ノ川小学校、給食開始 ・大宮小学校校しや新ちく	・西土佐大橋ができる	
		54	1979	・津野川小学校、給食開始		
		55	1980	・大宮小学校、給食開始		
		56	1981	・奥屋内 おくやない 小学校校しや新ちく ・中半 なかば 小学校校しや新ちく ・権谷小学校校しや新ちく		
		57	1982	・本村 ほんむら 小学校校しやぞうちく		
		59	1984	・須崎小学校校しや新ちく		
		60	1985	・口屋内小学校校しや新ちく		
		61	1986		・ほ健 けん センターができる（江川 崎しんりょう所が新しくなる）	
二十 年前	平	62	1987	・川崎 かわさき 小学校校しや、い転 てん 新ちく		
		2	1990		・カヌー館 かん 、西土佐ふれあいホ ール、天文観 てんもんかん そく所ができる	
		5	1993	・本村小学校校しや改ちく		
		7	1995	・西ヶ方小学校校しや改ちく		
		12	2000	・津野川小学校校しやぞうちく		
		14	2002	・下家地 しもいえじ 小学校が川崎小学校へとう合		
		15	2003	・藤ノ川小学校が川崎小学校へとう合 ・権谷小学校が本村小学校へとう合		
十 年前	成					
2005(平成17) 年 4月10日 「四万十市」がたん生しました。						

四万十川の四季



春



夏



秋



冬

【編 集 委 員】

威 能 英 明	（下 田 小）	竹 村 暢 夫	（中 筋 小）
今 城 久 美	（竹 島 小）	曾 根 健 介	（中 筋 小）
清 水 聡	（東 山 小）	藤 原 昭 彦	（中村南小）
沖 文 恵	（中 村 小）	池 田 理 枝	（中村南小）
山 崎 真 紀	（蕨 岡 小）	宮 地 早 苗	（口屋内小）
舛 谷 浩 美	（大 用 小）	久 万 和 栄	（津野川小）
坂 元 厚 子	（田 野 川 小）	森 麻 見	（大 宮 小）
安 田 優 子	（利 岡 小）	竹 内 里 香	（須 崎 小）
柴 園 美	（川 登 小）	沖 美 保	（西ヶ方小）
横 山 昌 二	（具 同 小）	柴 岡 美 貴	（川 崎 小）
兒 玉 郁 代	（具 同 小）	石 川 恭 弘	（本 村 小）
武 田 千 恵	（八 束 小）	土 田 章 雄	（本 村 小）
山 田 美智子	（東中筋小）	和 田 紀 子	（本 村 小）

【写 真 提 供】

（財）四万十市観光協会 （財）四万十川財団

四万十市役所 郷土資料館 四万十川学遊館

【出 典】

IPA「教育画像素材集サイト」<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

四万十市社会科副読本

平成19年3月16日 初版

編集 ● 四万十市教育員会
四万十市社会科副読本編集委員会

第一法規株式会社

発行 ● 四万十市教育委員会
四万十市右山五月町8-22

印刷 ● 第一法規株式会社
東京都港区南青山2丁目11番17号